

# 參考資料

---

# 参考資料1 自治体アンケート調査票

「多摩・島しょ地域自治体におけるまちづくりへの若者世代の参画のための取組に関する調査研究」に係るアンケート調査

■ 提出方法

公益財団法人 東京市町村自治調査会

● 記入した調査票はメールに添付のうえ、下記のアドレスまでご提出ください。

● **ご多用のところ恐れ入りますが、2025年8月13日（水）の17時**までのご提出をお願いします。

○提出先・送附内容や回収方法に関する際、先  
株式会社 日本総連協会総合研究所  
メール：  (津井、竹田、田中、前原)

○本調査研究の趣旨や目的に関する際、先  
公益財団法人 東京市町村自治調査会  
メール：  (神田、山本、高橋(力)、高橋(運))

■ 調査目的  
本調査は多摩・島しょ地域において、「まちづくり」に若者の声を反映させるための取組」や「各種施策の実施に関して若者の知恵や活力を活かすための取組」の展開状況等を把握するために実施します。

■ 本調査の対象  
● 多摩・島しょ地域市町村

■ 記入時のお問い合わせ  
● 上記の取組は「若者会議」「若者委員会」「地域活性化プランコンテスト」等、具体的な取組内容が多種多様であることが想定されることから、「若者が暮らしたい、住み続けたい」と思うまちを実現していくために、若者の声を聞く場を設けたり、事業に参加する機会を身元より提供する取組」と大まかに按えてください。なお、他の市区町村から若者が参加していただくことを促進するための取組は、対象としていません。  
● 若者の参画は複数の取組で進められていたり、お手配が難しいかもしれませんが、とりまともの上、貴自治体として「代表的（継続的に実施している・実施する予定/他の地域に展開したい等）」な取組を念頭にご回答ください（1自治体1回答にてお願います）。

■ 調査票の取り扱いについて  
● お預かりする個人情報（(株)日本総連協会総合研究所の「個人情報保護方針」及び「個人情報取り扱いについて」<https://jmar-jm.com/policy/>）に従って適切に取り扱います。  
● 取りまとめた調査結果は、東京市町村自治調査会が報告書で公開します。  
● 本アンケート調査の回答内容について、自治体名が分かる形で公表することはありません。  
● アンケート調査の集約後、先導的な取り組み事例についてヒアリング調査のご協力をお願いします。

次のシートにお進みください →

1. 貴自治体について

貴自治体についてお答えください。  
F1 自治体名 (選択入力)

本アンケートの取りまとめのご担当者についてお答えください。  
F2 部署名 (選択入力)

F3 ご担当者氏名 (選択入力)

F4 電話番号 (選択入力)

F5 メールアドレス (選択入力)

■ 同一回答の質問です。質問の意図が異なる場合は質問ごとにお答えください。  
■ 複数回答の質問です。質問の意図が異なる場合は質問ごとにお答えください。  
■ 取組内容は自由回答の欄です。記入は任意です。自由回答には文字数の制限はありません。

次のシートにお進みください →













## 参考資料2 自治体アンケート調査結果（本編掲載分以外）

### 調査概要

調査目的	○若者世代がまちづくりへ参画するために、自治体はどのような取組を進めるべきか、全国の先進的な事例の調査等を行いながら、多摩・島しょ地域市町村の取組の方向性を提示すること
調査対象	多摩・島しょ地域39市町村
調査時期	令和7年7月25日～8月29日
調査方法	電子メールによるアンケート調査票（Excel形式）の送付・回収
回収数	39団体
留意事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・調査結果表中の「n」とは、問ごとの基数を意味する。</li> <li>・グラフは回答数が多い順に表記している（「その他」「わからない」等を除く）。</li> <li>・本文や図表中の選択肢の表記は、語句を短縮・簡略化している場合がある。</li> <li>・「その他」回答については、明らかな誤字を除いて、回答をそのまま掲載しているため、表現等が統一されていない場合がある。</li> </ul>

1

主な設問区分	設問概要
1 まちづくりへの若者の参画に係る現状	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 地域課題のうち、課題解決に向けて若者の参画を期待するもの</li> <li>② まちづくりに若者が参画することを促す取組に係る状況</li> </ul>
2 取組の状況について ※ まちづくりに若者が参画することを促す取組を行っている団体が対象	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 開始時期</li> <li>② 対象となる若者の条件</li> <li>③ 条例に基づく取組であるか否か</li> <li>④ 取組の政策的な位置づけの有無</li> <li>⑤ 庁内の体制</li> <li>⑥ 目的</li> <li>⑦ 発信媒体</li> <li>⑧ 意見聴取の手法</li> <li>⑨ 若者の意見を施策や事業等に反映させるために実施している取組</li> <li>⑩ 想定していた/実際に直面した課題</li> <li>⑪ 工夫・留意したこと</li> <li>⑫ 期待していたこと/把握できた成果</li> </ul>
3 取組を実施していた当時の状況について ※ まちづくりに若者が参画することを促す取組を行っていた団体が対象	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 開始/終了時期</li> <li>② 対象とした若者の条件</li> <li>③ 条例に基づく取組であったか否か</li> <li>④ 取組の政策的な位置づけの有無</li> <li>⑤ 庁内の体制</li> <li>⑥ 目的</li> <li>⑦ 発信媒体</li> <li>⑧ 意見聴取の手法</li> <li>⑨ 若者の意見を施策や事業等に反映させるために実施した取組</li> <li>⑩ 想定していた/実際に直面した課題</li> <li>⑪ 工夫・留意したこと</li> <li>⑫ 期待していたこと/把握できた成果</li> <li>⑬ 終了（廃止）した理由</li> </ul>

2

主な設問区分	設問概要
4 取組の検討状況について ※ まちづくりに若者が参画することを促す 取組を検討中の団体が対象	① 具体的に進めている検討事項 ② 現時点で感じている課題
5 実施・検討していない理由について ※ まちづくりに若者が参画することを促す 取組を実施も検討もしていない団体が 対象	① 実施も検討もしていない理由
6 国等に求める支援	① 国や都等へ期待すること

3

① 取組を開始した時期を教えてください。（記述回答、n=21）【単純集計】

取組開始時期	回答数
2001年以前	0
2001年～2005年	2
2006年～2010年	1
2011年～2015年	1
2016年～2020年	5
2021年～2025年	11
無回答1	1

4

② 対象となる若者の条件（居住地）を教えてください。（記述回答、n=21）  
【単純集計】

NO	回答内容
1	市内在住・在学・在勤
2	〇〇市在住
3	市内
4	市内に在住・在学・在勤
5	市内在住または、在学
6	町内
7	町内
8	不明
9	島内在住
10	指定なし

NO	回答内容
11	〇〇市に在住・または、在学等
12	市内在住、在勤、在学
13	市内市外ともに対象
14	市内在住
15	市内在住
16	指定なし
17	市内に在住、在勤、在学等
18	市内在住・在勤
19	①市内、②市内および市外

5

② 対象となる若者の条件（その他）を教えてください。（記述回答、n=21）  
【単純集計】

その他（自由記述）	
1	〇〇市在学または、市内で活動されている方
2	本年度開始する「若者会議（仮称）」事業については〇〇市に在住・在学・在勤の若者も対象としている。
3	島内の高校生
4	所属の指定もなし
5	グループの代表者が〇〇市に在住、在学等であれば申込み可能
6	市内に所在する大学に通う学生
7	市と連携する学校に所属する学生（大学院・専攻科等を含む）
8	〇〇市在住・在勤・在学の方
9	子育て世代・近年転入された方を一つの対象としている。

6

③ 取組は条例に基づき実施されていますか。（単一回答、n=21）【単純集計】

◆条例の名称

NO	回答内容
1	〇〇市子どもの権利条例
2	〇〇村総合開発委員会条例
3	〇〇市子どもにやさしいまち条例
4	〇〇市子ども・若者・子育て会議条例

◆要綱等の名称

NO	回答内容
1	〇〇市生活支援体制整備事業実施要綱

7

④ 取組の政策的な位置付けを教えてください。（複数回答、n=21）【単純集計】

◆個別計画の名称

NO	回答内容
1	〇〇市こども計画
2	第六次子どもプラン〇〇
3	〇〇市子どもマスタープラン25-34
4	〇〇市地域包括ケア推進計画
5	〇〇市子ども・若者未来プラン
6	第2期〇〇学園都市ビジョン
7	〇〇市公共施設等総合管理計画
8	〇〇市こども計画（R7年度からの施行にあたり意見聴取を実施）
その他（自由記述）	
1	指定管理施設「〇〇市市民活動センター〇〇」事業「〇〇若者ミライ会議」
2	基本構想にあたる「〇〇地域未来ビジョン2030」の推進事業

8

① 取組を開始した時期及び終了した時期を教えてください。（記述回答、n=2）  
【単純集計】

取組を開始した時期(回答があったもののみ掲載)	回答数
2021年～2025年	2

取組を終了した時期(回答があったもののみ掲載)	回答数
2021年～2025年	2

9

② 対象とした若者の条件（年齢・居住地・その他）を教えてください。  
（記述回答、n=2）【単純集計】

◆年齢

NO	回答内容
1	17歳～18歳
2	16歳～39歳

◆居住地

NO	回答内容
1	都内

◆その他

NO	回答内容
1	〇〇高校の生徒（高校3年生）

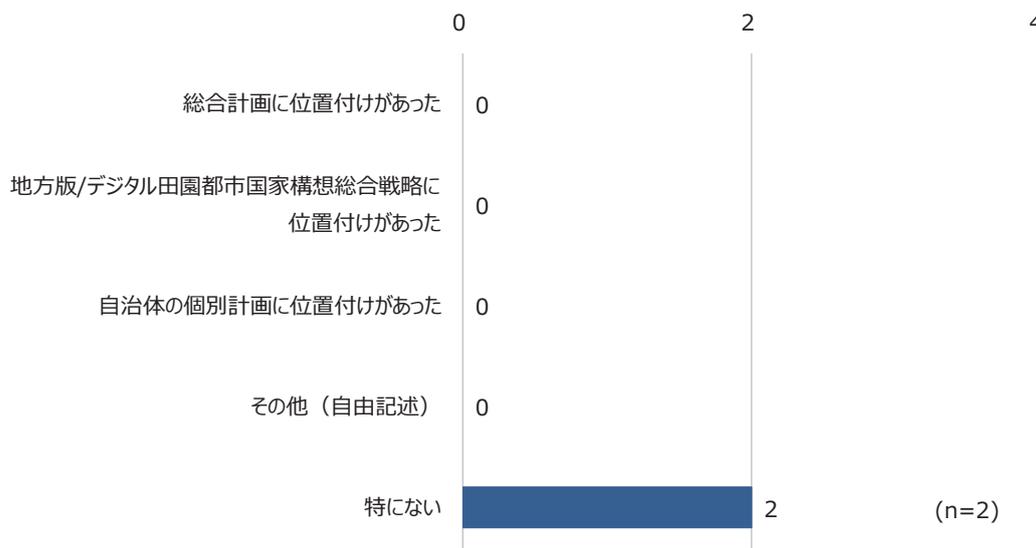
10

③ 取組は条例に基づき実施されましたか。(単一回答、n=2)【単純集計】

条例に基づいていたか(回答があったもののみ掲載)	回答数
該当なし(条例未制定)	2

11

④ 取組の政策的な位置づけを教えてください。(複数回答、n=2)【単純集計】



12

- ⑤ 取組の推進に係る、当時の庁内の体制を教えてください。〈所管部門〉  
(単一回答、n=2)【単純集計】

所管部門(回答があったもののみ掲載)	回答数(降順)
企画部門	1
都市・建設部門	1

- ⑤ 取組の推進に係る、当時の庁内の体制を教えてください。〈関係部門〉  
(複数回答、n=2)【単純集計】

関係部門(回答があったもののみ掲載)	回答数(降順)
都市・建設部門	1
無回答	1

13

- ⑥ 取組の目的を教えてください。(複数回答、n=2)【単純集計】

取組目的(回答があったもののみ掲載)	回答数(降順)
地域の課題に若者の柔軟な発想で新たな解決策を得るため	1
上位計画(地方創生、総合計画、SDGs等)の方針に沿うため	1

- ⑦ 若者にまちづくりへの参画を呼びかける際に活用した発信媒体を教えてください。  
(複数回答、n=2)【単純集計】

活用した発信媒体(回答があったもののみ掲載)	回答数(降順)
個別の通知	1
無回答	1

14

- ⑧ 若者のまちづくりに対するニーズや思いを把握するために実施した、意見聴取の手法を教えてください。（複数回答、n=2）【単純集計】

実施した意見聴取の手法(回答があったもののみ掲載)	回答数(降順)
若者を対象としたアンケート調査の実施	2

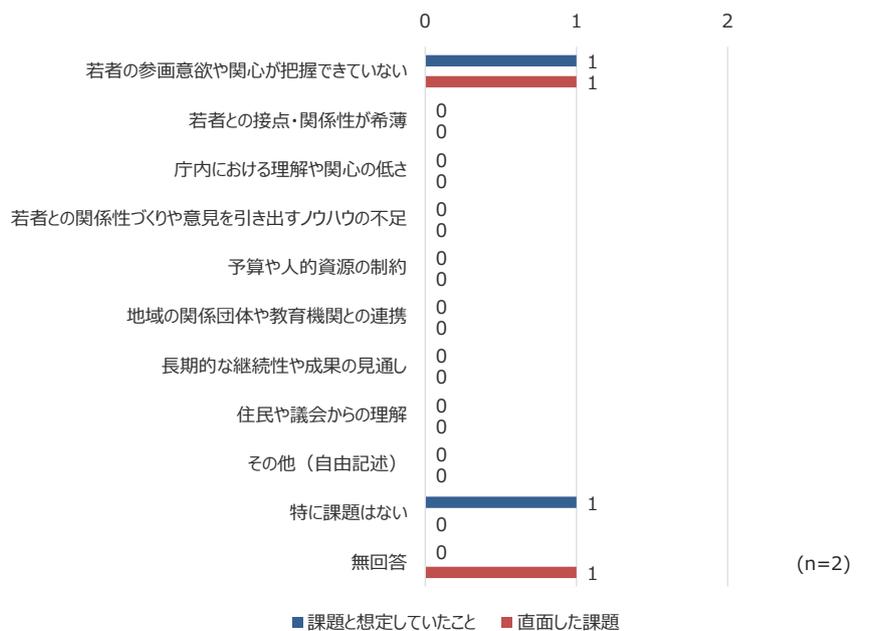
- ⑨ ⑧で挙げたような意見聴取を通じて把握した、若者の意見を施策や事業等に反映させるために実施した支援の内容を教えてください。（複数回答、n=2）【単純集計】

実施した支援の内容(回答があったもののみ掲載)	回答数(降順)
その他	1
取組を行っていない	1

その他（自由記述）	
1	審議会資料の一つとして取りまとめ

15

- ⑩ 取組を開始・展開する以前に課題と想定していたことを教えてください。また、実際に直面した課題があれば教えてください。（複数回答、n=2）【単純集計】



16

⑪ 取組を開始・展開する上で工夫・留意したことを教えてください。  
 (複数回答、n=2) 【単純集計】

工夫・留意点(回答があったもののみ掲載)	回答数(降順)
オンライン等も活用した効率的な会議運営等を通じて参画負担を軽減	1
先進事例や現在の取組に係る情報の提供	1

17

⑫ 若者がまちづくりへ参画することに対して、取組実施前に期待していたことを教えてください。また、取組実施後に把握できた成果を教えてください。  
 (複数回答、n=2) 【単純集計】



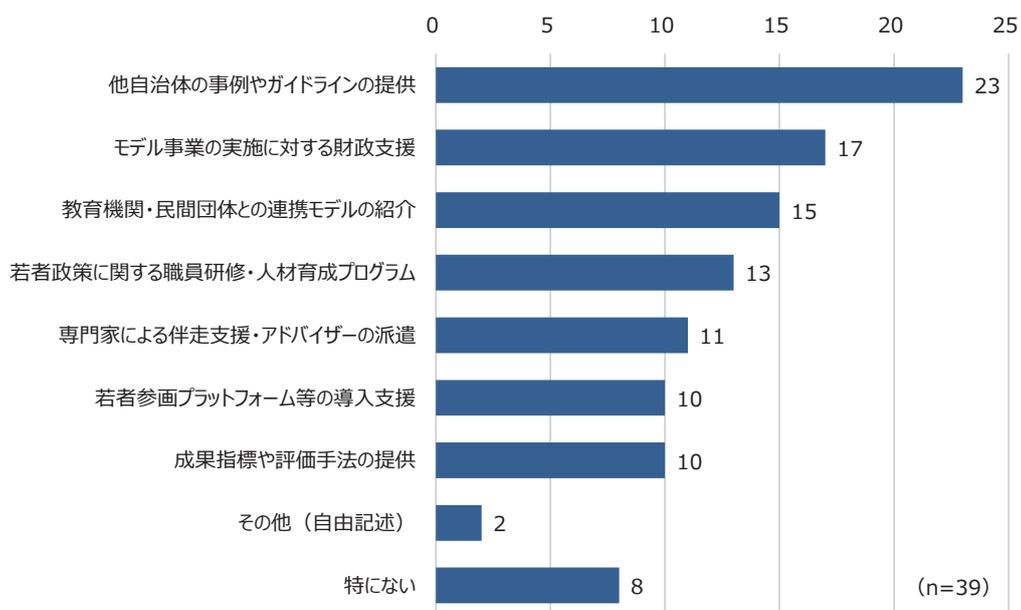
18

⑬ 取組が終了（廃止）した理由を教えてください。（複数回答、n=2）  
【単純集計】

取組終了（廃止）の理由（回答があったもののみ掲載）	回答数（降順）
当初の目的が達成されたため	2

19

① まちづくりへの若者の参画に係る取組を推進するため、国や東京都に期待することがあれば教えてください。（複数回答、n=39）【単純集計】



20

① まちづくりへの若者の参画に係る取組を推進するため、国や東京都に期待すること（その他）があれば教えてください。（複数回答、n=39）【単純集計】

NO	回答内容
1	都内各自治体の若者が自治体の垣根を越えて集い、地域課題の共有や解決策の模索・提案、協働で事業化・インキュベーションにつなげるためのプラットフォーム運営。 イギリスのGround Work UKによる「Youth Advisory Board（青少年諮問委員会）」や発行物「Powered By Us」のように、全国規模での展開が望ましい。
2	補助額の増額

# 参考資料3-1 若者アンケート回答画面（予備調査）

## SC1

あなたの年齢を教えてください。

- 1  15～22歳
- 2  23～29歳
- 3  30～39歳
- 4  40～49歳
- 5  50～59歳
- 6  60歳以上

## SC2

あなたのお住まい(都道府県)を教えてください。

## SC3

あなたのお住まい(市区町村)を教えてください。

- 1  千代田区
- 2  中央区
- 3  港区
- 4  新宿区
- 5  文京区
- 6  台東区
- 7  墨田区
- 8  江東区
- 9  品川区
- 10  目黒区
- 11  大田区
- 12  世田谷区
- 13  渋谷区
- 14  中野区
- 15  杉並区
- 16  豊島区
- 17  北区
- 18  荒川区
- 19  板橋区
- 20  練馬区
- 21  足立区
- 22  葛飾区
- 23  江戸川区
- 24  八王子市
- 25  立川市
- 26  武蔵野市
- 27  三鷹市
- 28  青梅市
- 29  府中市
- 30  昭島市
- 31  調布市
- 32  町田市
- 33  小金井市
- 34  小平市
- 35  日野市
- 36  東村山市
- 37  国分寺市
- 38  国立市
- 39  福生市
- 40  狛江市
- 41  東大和市
- 42  清瀬市
- 43  東久留米市
- 44  武蔵村山市
- 45  多摩市
- 46  稲城市
- 47  羽村市
- 48  あきる野市
- 49  西東京市
- 50  瑞穂町
- 51  日の出町
- 52  檜原村
- 53  奥多摩町
- 54  大島町
- 55  利島村
- 56  新島村
- 57  神津島村
- 58  三宅村
- 59  御蔵島村
- 60  八丈町
- 61  青ヶ島村
- 62  小笠原村

## SC4

あなたの職業を教えてください。

- 1  会社員
- 2  自営業
- 3  パートタイム・アルバイト
- 4  学生
- 5  公務員・団体職員
- 6  臨時・日雇社員
- 7  派遣社員
- 8  専業主婦・主夫
- 9  無職
- 10  その他

## SC5

あなたの通勤・通学先(都道府県)を教えてください。

## SC6

あなたの通勤・通学先(市区町村)を教えてください。

- 1  千代田区
- 2  中央区
- 3  港区
- 4  新宿区
- 5  文京区
- 6  台東区
- 7  墨田区
- 8  江東区
- 9  品川区
- 10  目黒区
- 11  大田区
- 12  世田谷区
- 13  渋谷区
- 14  中野区
- 15  杉並区
- 16  豊島区
- 17  北区
- 18  荒川区
- 19  板橋区
- 20  練馬区
- 21  足立区
- 22  葛飾区
- 23  江戸川区
- 24  八王子市
- 25  立川市
- 26  武蔵野市
- 27  三鷹市
- 28  青梅市
- 29  府中市
- 30  昭島市
- 31  調布市
- 32  町田市
- 33  小金井市
- 34  小平市
- 35  日野市
- 36  東村山市
- 37  国分寺市
- 38  国立市
- 39  福生市
- 40  狛江市
- 41  東大和市
- 42  清瀬市
- 43  東久留米市
- 44  武蔵村山市
- 45  多摩市
- 46  稲城市
- 47  羽村市
- 48  あきる野市
- 49  西東京市
- 50  瑞穂町
- 51  日の出町
- 52  檜原村
- 53  奥多摩町
- 54  大島町
- 55  利島村
- 56  新島村
- 57  神津島村
- 58  三宅村
- 59  御蔵島村
- 60  八丈町
- 61  青ヶ島村
- 62  小笠原村

SC7

あなたが5年以内に、訪れたことがある都道府県を教えてください。(いくつでも)

- 1  北海道
- 2  青森県
- 3  岩手県
- 4  宮城県
- 5  秋田県
- 6  山形県
- 7  福島県
- 8  茨城県
- 9  栃木県
- 10  群馬県
- 11  埼玉県
- 12  千葉県
- 13  東京都
- 14  神奈川県
- 15  新潟県
- 16  富山県
- 17  石川県
- 18  福井県
- 19  山梨県
- 20  長野県
- 21  岐阜県
- 22  静岡県
- 23  愛知県
- 24  三重県
- 25  滋賀県
- 26  京都府
- 27  大阪府
- 28  兵庫県
- 29  奈良県
- 30  和歌山県
- 31  鳥取県
- 32  島根県
- 33  岡山県
- 34  広島県
- 35  山口県
- 36  徳島県
- 37  香川県
- 38  愛媛県
- 39  高知県
- 40  福岡県
- 41  佐賀県
- 42  長崎県
- 43  熊本県
- 44  大分県
- 45  宮崎県
- 46  鹿児島県
- 47  沖縄県

SC8

東京都で訪れた市区町村をお答えください。(いくつでも)

- 1  千代田区
- 2  中央区
- 3  港区
- 4  新宿区
- 5  文京区
- 6  台東区
- 7  墨田区
- 8  江東区
- 9  品川区
- 10  目黒区
- 11  大田区
- 12  世田谷区
- 13  渋谷区
- 14  中野区
- 15  杉並区
- 16  豊島区
- 17  北区
- 18  荒川区
- 19  板橋区
- 20  練馬区
- 21  足立区
- 22  葛飾区
- 23  江戸川区
- 24  八王子市
- 25  立川市
- 26  武蔵野市
- 27  三鷹市
- 28  青梅市
- 29  府中市
- 30  昭島市
- 31  調布市
- 32  町田市
- 33  小金井市
- 34  小平市
- 35  日野市
- 36  東村山市
- 37  国分寺市
- 38  国立市
- 39  福生市
- 40  狛江市
- 41  東大和市
- 42  清瀬市
- 43  東久留米市
- 44  武蔵村山市
- 45  多摩市
- 46  稲城市
- 47  羽村市
- 48  あきる野市
- 49  西東京市
- 50  瑞穂町
- 51  日の出町
- 52  檜原村
- 53  奥多摩町
- 54  大島町
- 55  利島村
- 56  新島村
- 57  神津島村
- 58  三宅村
- 59  御蔵島村
- 60  八丈町
- 61  青ヶ島村
- 62  小笠原村

## 参考資料3-2 若者アンケート回答画面（本調査）

### Q2

あなたは今後、多摩・島しょ地域(※)に住みたいと思いますか。

(※)多摩・島しょ地域とは以下の市町村を指します(以下、同様)。八王子市、立川市、武蔵野市、三鷹市、青梅市、府中市、昭島市、調布市、町田市、小金井市、小平市、日野市、東村山市、国分寺市、国立市、福生市、狛江市、東大和市、清瀬市、東久留米市、武蔵村山市、多摩市、稲城市、羽村市、あきる野市、西東京市、瑞穂町、日の出町、檜原村、奥多摩町、大島町、利島村、新島村、神津島村、三宅村、御蔵島村、八丈町、青ヶ島村、小笠原村

- 1  住んでみたい
- 2  きっかけがあれば住んでみたい
- 3  あまり住みたいとは思わない
- 4  住みたいと思わない

### Q2\_1

住みたいと思う理由を教えてください。(いくつでも)

- 1  通勤・通学に都合がよいから
- 2  住宅購入費・賃料が手ごろだから
- 3  希望する広さの住宅が確保できるから
- 4  親の近くに住みたいから
- 5  緑・水辺などの自然環境がよいから
- 6  道路・下水道などのインフラが整っているから
- 7  子育て支援が充実しているから
- 8  教育環境が希望に合っているから
- 9  病院などの医療体制が充実しているから
- 10  まちなみやまちの雰囲気よいから
- 11  生涯学習・文化系の施設が充実しているから
- 12  スポーツ環境が充実しているから
- 13  高齢者や障害者等のための福祉が充実しているから
- 14  安全で安心して住むことができるから
- 15  同世代の友人・知人がいるから
- 16  その他

### Q1

あなたは、これから先も現在お住まいの市町村に住み続けたいと思いますか。

- 1  住み続けたい
- 2  どちらかといえば住み続けたい
- 3  別の市区町村に転居したい

### Q1\_1

住み続けたいと思う理由を教えてください。(いくつでも)

- 1  自分の家(土地)だから
- 2  豊かな自然がある
- 3  公共施設が充実
- 4  交通が便利である
- 5  買物がしやすい
- 6  子育て環境が整っている
- 7  教育環境が整っている
- 8  地域や近所づきあいが良好
- 9  地域に愛着がある
- 10  仕事や学校の関係で
- 11  同世代の友人・知人がいる
- 12  治安がよい
- 13  その他

### Q1\_2

転居したいと思う理由を教えてください。(いくつでも)

- 1  自然環境がよくない
- 2  住宅環境が不十分
- 3  公共施設が不十分
- 4  交通が不便である
- 5  買物がしにくい
- 6  子育て環境が不十分
- 7  教育環境が不十分
- 8  地域や近所づきあいがよくない
- 9  地域の防犯体制が不十分
- 10  地域に愛着がない
- 11  仕事や学校の関係で
- 12  同世代の友人・知人がいない
- 13  その他

Q2.2

住みたいと思わない理由を教えてください。(いくつでも)

- 1  通勤・通学に都合がよくないから
- 2  住宅購入費・賃料が高いから
- 3  希望する広さの住宅が確保できないから
- 4  駅の近くに住みたいから
- 5  自然環境がよくないから
- 6  道路・下水道などのインフラが整っていないから
- 7  子育て環境が不十分だから
- 8  教育環境が不十分だから
- 9  病院などの医療体制が不十分だから
- 10  まちなみやまちの雰囲気がよくないから
- 11  生涯学習・文化系の施設が不十分だから
- 12  スポーツ環境が不十分だから
- 13  高齢者や障害者等のための福祉が不十分だから
- 14  交通が不便だから
- 15  買物がしにくいから
- 16  地域や近所づきあいがよくないから
- 17  地域の防犯体制が不十分だから
- 18  地域に愛着がないから
- 19  仕事や学校の関係で
- 20  同世代の友人・知人がいないから
- 21  その他

Q3

あなたが多摩・島しょ地域(※)を訪れた際の目的を教えてください。  
複数回答されている場合は最も多い目的を教えてください。

(※)多摩・島しょ地域とは以下の市町村を指します(以下、同様)。  
八王子市、立川市、武蔵野市、三鷹市、青梅市、府中市、昭島市、調布市、町田市、小金井市、小平市、日野市、東村山市、国分寺市、国立市、福生市、狛江市、東大和市、清瀬市、東久留米市、武蔵村山市、多摩市、稲城市、羽村市、あきる野市、西東京市、瑞穂町、日の出町、檜原村、奥多摩町、大島町、利島村、新島村、神津島村、三宅村、御蔵島村、八丈町、青ヶ島村、小笠原村

- 1  観光
- 2  遊び・レクリエーション
- 3  買い物・食事
- 4  仕事(出張等)
- 5  研修・セミナー等
- 6  親戚・友人等への訪問
- 7  学習・学術調査
- 8  スポーツイベント参加・観戦
- 9  趣味
- 10  ボランティア
- 11  その他

Q4

あなたが感じる、多摩・島しょ地域の魅力を教えてください。(いくつでも)

- 1  山岳・渓谷などの自然
- 2  美しい海に囲まれた島の自然
- 3  武蔵野らしい原風景・景観
- 4  河川・用水・湧水などの水系
- 5  都心近郊にある農地・田園
- 6  自然をいかした各種アクティビティ(例:トレッキング、シュノーケリング等)
- 7  まちが静か・落ち着いた
- 8  犯罪が少なく、安心して暮らすことができる
- 9  自然災害などが少なく、安全に暮らすことができる
- 10  寺社・仏閣などの歴史的な建造物や文化財
- 11  地域の恒例イベント・祭りや伝統芸能
- 12  郷土料理・地元グルメ
- 13  農林水産物・特産品
- 14  アクセスのよさ
- 15  子育て・教育環境のよさ
- 16  大学・研究機関の集積
- 17  家賃や物価の安さ
- 18  地元の人々の雰囲気・親しみやすさ
- 19  その他
- 20  わからない

Q5

あなたが感じる、多摩・島しょ地域の課題を教えてください。(いくつでも)

- 1  里地や里山、農地などの管理が行き届いていない
- 2  風水害などのリスクが高い
- 3  治安が悪い
- 4  交通アクセスの不便さ(公共交通や道路など)
- 5  商業施設・娯楽施設が少ない
- 6  空き家や空き地が増えている
- 7  若者向けの場所やイベントが少ない
- 8  移住・定住の支援が不足している
- 9  進学先の選択肢が少ない
- 10  働く場所・仕事の選択肢が少ない
- 11  情報発信インフラの不足
- 12  医療・福祉など生活インフラの不足
- 13  デジタル化が進んでいない
- 14  その他
- 15  わからない

Q6

あなたの「まちづくり」への参加に対する関心を教えてください。

※ここでいうまちづくりとは、社会や地域をよりよくするために、社会・地域が抱える課題の解決やまちの魅力向上・地域の幸福度向上などに取り組む活動(例:空き家や空き店舗を活用した若者の居場所づくり、地域の魅力に係る情報発信)を意味します。

- 1  非常に関心がある
- 2  ある程度関心がある
- 3  あまり関心がない
- 4  全く関心がない

Q6\_1

まちづくりに参加する際、活動範囲として想定される場所のイメージを教えてください。(いくつでも)

- 1  住んでいる地域・自治体
- 2  通勤・通学先の地域・自治体
- 3  その他
- 4  わからない

Q6\_2

活動範囲として想定される場所を選んで理由を教えてください。

1	2	3
住 (い く つ で も 地 域 ・ 自 治 体 )	通 (い く つ で も 地 域 ・ 自 治 体 )	そ (い く つ で も 地 域 ・ 自 治 体 )
普段からよく行く場所だから	<input type="checkbox"/> 1	<input type="checkbox"/> 1
生活圏内で、アクセスしやすいから	<input type="checkbox"/> 2	<input type="checkbox"/> 2
地元貢献したいという思いがあるから	<input type="checkbox"/> 3	<input type="checkbox"/> 3
知っている人がいそうだから	<input type="checkbox"/> 4	<input type="checkbox"/> 4
その地域で困っていることをよく知っているから	<input type="checkbox"/> 5	<input type="checkbox"/> 5
自分のスキルや興味を活かせる活動があるから	<input type="checkbox"/> 6	<input type="checkbox"/> 6
通勤・通学などでなじみがある場所だから	<input type="checkbox"/> 7	<input type="checkbox"/> 7
若い人が多く活動しやすいから	<input type="checkbox"/> 8	<input type="checkbox"/> 8
活動の案内や情報を目にする機会が多いから	<input type="checkbox"/> 9	<input type="checkbox"/> 9
活動している人・団体に知人がいるから	<input type="checkbox"/> 10	<input type="checkbox"/> 10
その他	<input type="checkbox"/> 11	<input type="checkbox"/> 11

Q6\_3

あなたが関心を持っている、地域や社会の具体的な課題を教えてください。また、関心のある課題のうち、あなた自身が課題解決に向けた活動に参加しているものがあれば教えてください。(それぞれいくつでも)

	1	2
地域を元気にすること (地域振興)	<input type="checkbox"/> 1	<input type="checkbox"/> 1
働く場所や職業の選択肢がもっと増えること (産業振興)	<input type="checkbox"/> 2	<input type="checkbox"/> 2
道や建物、公園などがもっと安全で使いやすいやくなること (都市基盤の維持・整備)	<input type="checkbox"/> 3	<input type="checkbox"/> 3
子どもを育てやすくするサポートがあること (子育て支援)	<input type="checkbox"/> 4	<input type="checkbox"/> 4
学校の授業や勉強の機会がもっとよくなること (教育)	<input type="checkbox"/> 5	<input type="checkbox"/> 5
病院や福祉のサービスがもっと便利になること (福祉・保健衛生)	<input type="checkbox"/> 6	<input type="checkbox"/> 6
災害や犯罪から安心して暮らせるまちなになること (安全・安心対策)	<input type="checkbox"/> 7	<input type="checkbox"/> 7
外国から来た人ともっと仲よくなること (多文化共生)	<input type="checkbox"/> 8	<input type="checkbox"/> 8
ごみや環境についてもっと意識するまちなになること (環境対策)	<input type="checkbox"/> 9	<input type="checkbox"/> 9
スポーツや音楽などの文化活動がもっと楽しめること (文化・スポーツ振興)	<input type="checkbox"/> 10	<input type="checkbox"/> 10
デジタルやインターネットを使って、 もっと便利になること (デジタル活用)	<input type="checkbox"/> 11	<input type="checkbox"/> 11
その他	<input type="checkbox"/> 12	<input type="checkbox"/> 12
わからない	<input type="checkbox"/> 13	<input type="checkbox"/> 13
特になし	<input type="checkbox"/> 14	<input type="checkbox"/> 14

Q6\_4

Q6\_3で回答した、参加している活動の状況を教えてください。  
なお、複数の活動に参加している場合、最も参加頻度が高い活動について教えてください。

Q6\_4\_1

年間の参加頻度

- 1  週に1回以上
- 2  月に1回以上
- 3  年に1回以上

Q6\_4\_2

活動におけるあなたの役割

- 1  代表者・責任者
- 2  企画・運営等の意思決定に係る役員
- 3  活動や運営のサポート役(設置・連絡・広報などの実働メンバー)
- 4  会議やイベント当日に参加するだけの立場
- 5  その他

Q6\_4\_3

活動に参加している理由 (いくつでも)

- 1  社会に貢献できるから
- 2  身近な地域の役に立てるから
- 3  困っている人や誰かの力になりたいから
- 4  ソーシャルビジネスの勉強になるから
- 5  自分の成長やキャリアアップにつながるから
- 6  人とのつながりを増やせるから
- 7  やりたいことが見つかるから
- 8  自分の趣味やスキルがいかせるから
- 9  余暇時間を有意義に使えるから
- 10  楽しい時間を過ごせるから
- 11  自分の問題の解決につながるから
- 12  進学、就職などで有利になるから
- 13  その他
- 14  わからない

Q6\_5

活動に参加することへの不安や参加の妨げになっていることがあれば教えてください。  
(いくつでも)

- 1  活動時間の長さ・頻度などの時間的な負担
- 2  自分の他の予定が立てづらくなる
- 3  自分に何ができるのかわからない
- 4  活動事例や団体などの情報がわからない
- 5  一緒に参加する仲間がいない
- 6  先に活動している人の輪に入れるか不安
- 7  特別な知識やスキルがないと参加しづらい
- 8  長期的に参加し続けられるかわからない
- 9  わからない
- 10  特に不安や妨げになることはない
- 11  その他

Q7

関心がない理由を教えてください。(いくつでも)

- 1  どのような活動があるか知らないから
- 2  時間的な余裕がないから
- 3  家庭の事情(仕事、家事、介護、通院等)があるから
- 4  経費や手間がかかりすぎるから
- 5  気軽に参加できる活動が少ないから
- 6  同好の友人・仲間がいないから
- 7  近くに活動場所がないから
- 8  人と付き合うのが面倒だから
- 9  その他

Q8

次に挙げるまちづくり活動について、あなたが参加したいと思う活動を教えてください。  
(いくつでも)

- 1  若者を対象としたアンケート調査への回答
- 2  自治体が設ける若者向けSNS(XやInstagram、TikTok等)やオンラインツールの利用
- 3  若者を対象にした委員会・審議会への参加
- 4  若者会議や高校生・大学生との意見交換の場への参加
- 5  地域課題の解決等に向けた検討・提案
- 6  地域課題の解決等に向けた試行・実践への参加
- 7  その他
- 8  わからない

Q9

下に示す、まちづくりに役立つと考えられるスキルやノウハウに関して、得意である、やったことがあるものについて教えてください。(いくつでも)

- 1  SNSやデジタルメディアを活用した情報発信
- 2  動画・画像の撮影・編集
- 3  プレゼンテーションやアイデアの発表
- 4  イベントやプロジェクトの企画・運営
- 5  デザイン思考や発想法を活かしてアイデアを考える
- 6  幅広い世代の人とコミュニケーションをとる
- 7  国際交流に関心があるので、外国語や異文化への理解がある
- 8  調査やフィールドワークを通じて地域のことを調べた経験
- 9  ICTやアプリ開発、プログラミング
- 10  SDGsやサステナビリティに関わる研究、活動
- 11  地域課題や社会の問題に対して主体的に関わる
- 12  チームで協力して何か目的や目標を達成する経験
- 13  流行や若者文化について詳しい
- 14  社会課題の解決や地域活性化に関わる起業、ビジネスの経験
- 15  新しいことにも柔軟にチャレンジする
- 16  その他
- 17  あてはまるものはない

Q10

自治体が発信するまちづくりに係る情報を把握、収集する際に活用したい媒体があれば教えてください。(いくつでも)

- 1  公式ホームページ
- 2  広報紙(デジタル)
- 3  市区町村からのメール配信
- 4  市区町村公式LINE
- 5  市区町村公式X(旧:Twitter)
- 6  市区町村公式Instagram
- 7  市区町村公式専用アプリ
- 8  市区町村公式YouTubeチャンネル
- 9  その他SNS(TikTok等)
- 10  広報紙(紙)
- 11  回覧板・チラシ
- 12  個別の通知
- 13  その他
- 14  わからない

Q11

若者の意見を施策や事業等に反映させるため、行政に取り組んでほしいと思うアイデアがあれば教えてください。(いくつでも)

- 1  若者による企画・提案への予算措置
- 2  若者と地域団体・NPO・企業等とのマッチングの支援
- 3  SNSやオンラインツールを活用した情報発信と参加の仕組み整備
- 4  地域コーディネーターの配置(若者と行政・地域の仲介役)
- 5  若者の活動成果の可視化・表彰などによる動機づけ
- 6  その他
- 7  わからない

## 参考資料4 若者アンケート調査結果（本編掲載分以外）

### 調査概要

調査目的	○若者のまちづくりへの参画促進に向けた施策等を検討するため、若者の地域の現状に対する認識（生活上の困りごと、改善したい地域の課題等）、社会課題に対する関心、まちづくりに対する認識・参画意向、参画する上での心配・懸念、行政の関連施策に関する認知度・活用度等を把握、整理するため
調査対象	ウェブアンケートモニター15,000名に対して予備調査を実施し、以下の対象を抽出。 ① 15～39歳の者 ② ①のうち、多摩・島しょ地域に居住する者（300名） ③ ①のうち、多摩・島しょ地域へ通勤・通学する者（130名） ④ ①のうち、多摩・島しょ地域に訪問したことがある者（470名、本調査では多摩・島しょ地域に（なんらかの）関心がある者とみなし、分類・分析を行った）
調査時期	令和7年8月6日～8月18日
調査方法	インターネット調査（インターネットリサーチ会社を活用したモニター調査）
回収数	900
留意事項	・調査結果表中の「n」とは、問ごとの基数を意味する。 ・グラフは回答数（回答率）が高い順に表記している。（一部例外あり） ・回答の比率は、その質問の回答者数（回答数）を基数として算出した。端数処理の関係や回答できる数によって、内数の和が100%にならない場合がある。 ・本文や図表中の選択肢の表記は、語句を短縮・簡略化している場合がある。 ・「その他」回答については、明らかな誤字を除いて、回答をそのまま掲載しているため、表現等が統一されていない場合がある。

1

主な設問区分	設問概要
1 予備調査 (調査対象抽出のために実施)	① 年齢 ② 住まい（都道府県） ③ 住まい（市区町村）※②で「東京都」と回答した者が対象 ④ 職業 ⑤ 通勤・通学先（都道府県） ⑥ 通勤・通学先（市区町村）※⑤で「東京都」と回答した者が対象 ⑦ 5年以内に訪れたことのある都道府県 ⑧ 5年以内に訪れたことのある市区町村 ※⑦で「東京都」と回答した者が対象
2 本調査 (1) 多摩・島しょ地域に対する認識	<多摩・島しょ地域に居住する者向け> ① 現在住んでいる市町村に対する居住意向 ①-1 住み続けたいと思う理由 ①-2 転居したいと思う理由 <多摩・島しょ地域へ通勤・通学する者向け> ② 多摩・島しょ地域に対する居住意向 ②-1 住みたいと思う理由 ②-2 住みたいと思わない理由 <多摩・島しょ地域を訪れたことがある者向け> ③ 多摩・島しょ地域を訪れた目的 <全員対象> ④ 多摩・島しょ地域の魅力 ⑤ 多摩・島しょ地域の課題
(2) まちづくりなどへの参加に係る現状	① 「まちづくり」への参加に対する関心 <「まちづくり」への参加に「非常に関心がある」「ある程度関心がある」者向け> ①-1 活動範囲として想定される場所のイメージ ①-2 活動範囲として想定される場所を選んだ理由 ①-3 関心を持つ地域や社会の課題、課題解決に向けた活動に参加しているもの <課題解決に向けた活動に参加している者向け> ①-4 参加している活動の状況（参加頻度/活動における役割/参加している理由） <課題解決に向けた活動に参加していない者向け> ①-5 活動に参加することへの不安や傘下の妨げになっていること <「まちづくり」への参加に「関心がない」「あまり関心がない」者向け> ② 関心がない理由
(3) まちづくりへの参加に係る意向等	<全員対象> ① あなたが参加したいと思うまちづくり活動 ② まちづくりに役立つと考えられるスキルやノウハウ（得意である、やったことがあるもの） ③ 自治体が発信するまちづくりに係る情報を把握、収集する際に活用したい媒体 ④ 若者の意見を施策や事業等に反映させるため、行政に取り組んでほしいと思うアイデア

2

- 各設問（自由記述式回答分除く）について、単純集計とともに、下記の考え方のもと、有意義な分析が期待される属性についてクロス集計を行った。

集計区分	設定理由	区分別の母数(n)
基本属性 (集計軸)	・多摩・島しょ地域との関係性（在住/通勤・通学/訪問したことがある）と年代（15～19歳/20～29歳/30～39歳）を掛け合わせることで、多摩・島しょ地域への関心、まちづくり参画への現状及び参画意向に係る差異の有無を把握するため設定。	割付①多摩・島しょ地域在住の15～22歳(n=100) 割付②多摩・島しょ地域在住の23～29歳(n=100) 割付③多摩・島しょ地域在住の30～39歳(n=100) 割付④多摩・島しょ地域に通勤・通学する15～22歳(n=50) 割付⑤多摩・島しょ地域に通勤・通学する23～29歳(n=31) 割付⑥多摩・島しょ地域に通勤・通学する30～39歳(n=49) 割付⑦多摩・島しょ地域に訪問したことがある15～22歳(n=120) 割付⑧多摩・島しょ地域に訪問したことがある23～29歳(n=169) 割付⑨多摩・島しょ地域に訪問したことがある30～39歳(n=181) ※n=30未満の区分は統計的な偏りがあると考えられることから参考値（以下、同様）として扱うため、後述する全体と区分ごとの比較において比較対象（着色、分析コメント）からは除外（省略）する。
年代	・回答者の属性が限定されている一部設問において、年代による回答傾向の有無を把握するため設定。	15～22歳(n=270) 23～29歳(n=300) 30～39歳(n=330)
居住意向① ※多摩・島しょ地域在住	・以下の3点に着目して設定。 ①多摩・島しょ地域の魅力・課題と感じる点に差異があるのか。 ②まちづくりへの関心、参加状況にどのような影響（関係）があるのか。 ③まちづくりに係る活動への参加意向等にどのような影響（関係）があるのか。	住み続けたい(n=136) どちらかといえば住み続けたい(n=92) 住みたくないと思わない(n=72)

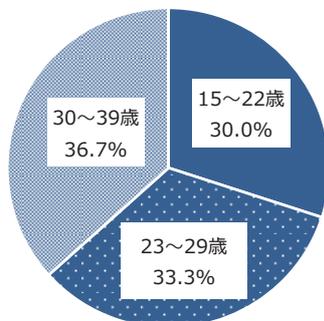
3

- 各設問（自由記述式回答分除く）について、単純集計とともに、下記の考え方のもと、有意義な分析が期待される属性についてクロス集計を行った。

集計区分	設定理由	区分別の母数(n)
居住意向② ※多摩・島しょ地域通勤・通学者	・以下の3点に着目して設定。 ①多摩・島しょ地域の魅力・課題と感じる点に差異があるのか。 ②まちづくりへの関心、参加状況にどのような影響（関係）があるのか。 ③まちづくりに係る活動への参加意向等にどのような影響（関係）があるのか。	住んでみたい(n=28) きっかけがあれば住んでみたい(n=44) あまり住みたくないと思わない(n=18) 住みたくないと思わない(n=40)
まちづくりへの関心	・まちづくりへの参加に係る関心度合いが多摩・島しょ地域への居住意向、魅力・課題に対する認識にどのような影響（関係）があるのかを把握するため設定。	非常に関心がある(n=103) ある程度関心がある(n=286) あまり関心がない(n=298) 全く関心がない(n=213)
まちづくりへの参加状況 (頻度・役割)	・まちづくりに参加している層の多摩・島しょ地域への居住意向、魅力・課題に対する認識、まちづくりへ参加するにあたって生かしている（と思われる）スキル・ノウハウの特徴等を把握するため設定。	①まちづくり参加頻度 週に1回以上 (n=18) 月に1回以上 (n=56) 年に1回以上 (n=119) ②まちづくり役割（活動における役割） 代表者・責任者 (n=3) 企画・運営等の意思決定に係る役員 (n=19) 活動や運営のサポート役（設営・連絡・広報などの実働メンバー、(n=49) 会議やイベント当日に参加するだけの立場 (n=121) その他 (n=1)

4

① あなたの年齢（単一回答、n=900）【単純集計】



(n=900)

② あなたのお住まい（都道府県、単一回答、n=900）【単純集計】

(%)

都道府県	割合
茨城県	2.4
栃木県	1.1
群馬県	1.2
埼玉県	12.7
千葉県	7.1
東京都	53.9
神奈川県	19.9
山梨県	0.8
長野県	0.9

※ 回答があるもののみ記載

5

③ あなたのお住まい（市区町村、単一回答、n=485）【単純集計】

(%)

千代田区	0.8	練馬区	4.1	福生市	0.0	三宅村	0.0
中央区	0.6	足立区	3.1	狛江市	1.4	御蔵島村	0.0
港区	0.6	葛飾区	1.2	東大和市	0.4	八丈町	0.0
新宿区	2.3	江戸川区	1.6	清瀬市	1.4	青ヶ島村	0.2
文京区	1.4	八王子市	9.1	東久留米市	0.4	小笠原村	0.8
台東区	0.2	立川市	5.2	武蔵村山市	1.0		
墨田区	1.2	武蔵野市	2.7	多摩市	1.6		
江東区	1.6	三鷹市	2.3	稲城市	2.3		
品川区	1.9	青梅市	0.6	羽村市	1.2		
目黒区	1.0	府中市	3.9	あきる野市	0.6		
大田区	1.6	昭島市	1.0	西東京市	2.1		
世田谷区	4.9	調布市	5.2	瑞穂町	0.0		
渋谷区	1.0	町田市	6.2	日の出町	0.2		
中野区	1.4	小金井市	0.8	檜原村	0.2		
杉並区	4.1	小平市	1.9	奥多摩町	0.4		
豊島区	1.0	日野市	3.9	大島町	0.0		
北区	0.2	東村山市	1.9	利島村	0.4		
荒川区	1.0	国分寺市	1.6	新島村	0.0		
板橋区	0.8	国立市	0.8	神津島村	0.0		

6

④ あなたの職業（単一回答、n=900）【単純集計】

(%)

会社員	自営業	パートタイム・ アルバイト	学生	公務員・ 団体職員	臨時・日雇社員	派遣社員	専業主婦・主夫	無職	その他
46.2	2.1	11.7	26.6	4.9	0.2	1.4	0.0	6.1	0.8

⑤ あなたの通勤・通学先（都道府県、単一回答、n=578）【単純集計】

(%)

福島県	茨城県	栃木県	群馬県	埼玉県	千葉県	東京都	神奈川県	山梨県	長野県	静岡県
0.2	2.9	1.4	1.9	11.6	6.9	55.5	17.1	1.2	1.0	0.2

※ 回答があるもののみ記載

7

⑥ あなたの通勤・通学先（市区町村、単一回答、n=321）【単純集計】

(%)

千代田区	9.0	練馬区	1.2	福生市	0.0	三宅村	0.0
中央区	5.6	足立区	2.5	狛江市	0.9	御蔵島村	0.3
港区	7.2	葛飾区	0.9	東大和市	0.0	八丈町	0.0
新宿区	6.9	江戸川区	0.6	清瀬市	0.6	青ヶ島村	0.0
文京区	3.1	八王子市	5.9	東久留米市	0.9	小笠原村	1.6
台東区	0.3	立川市	1.9	武蔵村山市	0.0		
墨田区	0.3	武蔵野市	3.1	多摩市	1.9		
江東区	0.9	三鷹市	1.9	稲城市	0.0		
品川区	5.0	青梅市	0.6	羽村市	0.3		
目黒区	1.2	府中市	1.9	あきる野市	0.0		
大田区	2.8	昭島市	0.3	西東京市	0.9		
世田谷区	1.9	調布市	1.2	瑞穂町	0.3		
渋谷区	3.1	町田市	7.5	日の出町	0.3		
中野区	2.2	小金井市	0.9	檜原村	0.0		
杉並区	0.6	小平市	1.2	奥多摩町	0.3		
豊島区	2.5	日野市	0.6	大島町	0.6		
北区	0.9	東村山市	1.6	利島村	0.0		
荒川区	0.3	国分寺市	1.2	新島村	0.0		
板橋区	0.3	国立市	1.6	神津島村	0.0		

8

⑦ あなたが5年以内に訪れたことがある都道府県（複数回答、n=503）【単純集計】

				（%）	
北海道	29.2	長野県	34.6	高知県	6.0
青森県	11.7	岐阜県	12.7	福岡県	21.1
岩手県	12.1	静岡県	40.0	佐賀県	6.6
宮城県	21.7	愛知県	32.0	長崎県	10.7
秋田県	10.7	三重県	15.7	熊本県	7.2
山形県	11.9	滋賀県	10.9	大分県	7.4
福島県	22.7	京都府	36.8	宮崎県	5.0
茨城県	36.8	大阪府	45.7	鹿児島県	8.5
栃木県	43.5	兵庫県	22.7	沖縄県	22.9
群馬県	39.2	奈良県	13.9		
埼玉県	66.4	和歌山県	6.4		
千葉県	70.8	鳥取県	6.6		
東京都	100.0	島根県	7.6		
神奈川県	80.3	岡山県	10.9		
新潟県	24.7	広島県	15.9		
富山県	11.9	山口県	6.4		
石川県	17.9	徳島県	6.2		
福井県	7.8	香川県	8.2		
山梨県	30.0	愛媛県	8.9		

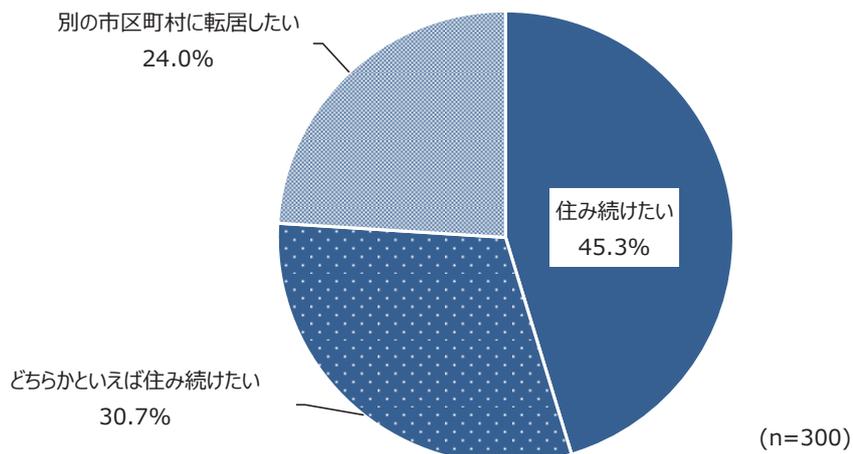
9

⑧ 東京都で訪れた市区町村（複数回答、n=503）【単純集計】

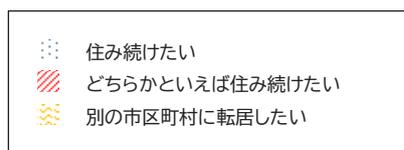
				（%）			
千代田区	55.7	練馬区	30.2	福生市	9.7	三宅村	2.8
中央区	49.1	足立区	30.4	狛江市	9.3	御蔵島村	3.0
港区	54.7	葛飾区	28.0	東大和市	6.8	八丈町	2.4
新宿区	71.2	江戸川区	28.2	清瀬市	10.5	青ヶ島村	2.4
文京区	43.1	八王子市	38.4	東久留米市	10.9	小笠原村	3.8
台東区	43.9	立川市	36.6	武蔵村山市	7.2		
墨田区	42.7	武蔵野市	24.7	多摩市	20.1		
江東区	42.9	三鷹市	27.4	稲城市	12.5		
品川区	55.7	青梅市	15.5	羽村市	7.0		
目黒区	41.9	府中市	21.5	あきる野市	10.7		
大田区	33.0	昭島市	11.9	西東京市	11.3		
世田谷区	44.9	調布市	22.5	瑞穂町	5.8		
渋谷区	66.0	町田市	30.4	日の出町	6.0		
中野区	37.4	小金井市	13.5	檜原村	5.6		
杉並区	31.4	小平市	12.5	奥多摩町	9.3		
豊島区	43.3	日野市	10.1	大島町	3.8		
北区	26.4	東村山市	11.3	利島村	2.4		
荒川区	21.3	国分寺市	15.7	新島村	3.6		
板橋区	29.2	国立市	13.9	神津島村	2.4		

10

① あなたは、これから先も現在お住まいの市町村に住み続けたいと思いますか。  
 (単一回答、n=300<多摩・島しょ地域に居住する者向け>)【単純集計】

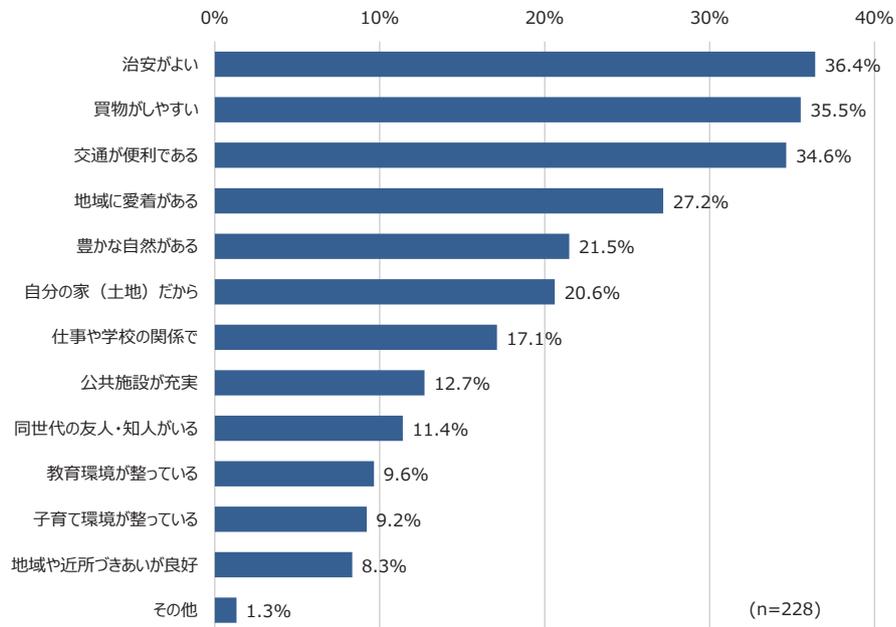


① あなたは、これから先も現在お住まいの市町村に住み続けたいと思いますか。  
 (単一回答、n=300<多摩・島しょ地域に居住する者向け>) 【年代別クロス集計①】



		(n)	(%)		
全体		300	45.3%	30.7%	24.0%
年代	15~22歳	100	42.0%	29.0%	29.0%
	23~29歳	100	45.0%	32.0%	23.0%
	30~39歳	100	49.0%	31.0%	20.0%

①-1 住み続けたいと思う理由を教えてください。（複数回答、n=228）  
【単純集計】



13

①-1 住み続けたいと思う理由を教えてください。（複数回答、n=228）  
【年代別クロス集計】

		(%)													
		(n)	自分の家（土地）だから	豊かな自然がある	公共施設が充実	交通が便利である	買物がしやすい	子育て環境が整っている	教育環境が整っている	地域や近所づきあいが良好	地域に愛着がある	仕事や学校の関係で	同世代の友人・知人がいる	治安がよい	その他
全体		228	20.6	21.5	12.7	34.6	35.5	9.2	9.6	8.3	27.2	17.1	11.4	36.4	1.3
年代	15～22歳	71	18.3	32.4	12.7	35.2	31.0	11.3	15.5	8.5	32.4	21.1	18.3	35.2	1.4
	23～29歳	77	14.3	14.3	11.7	31.2	28.6	3.9	5.2	6.5	19.5	9.1	10.4	35.1	1.3
	30～39歳	80	28.8	18.8	13.8	37.5	46.3	12.5	8.8	10.0	30.0	21.3	6.3	38.8	1.3

14

①-1 住み続けたいと思う理由を教えてください。(複数回答、n=228)  
【まちづくりへの関心別クロス集計】

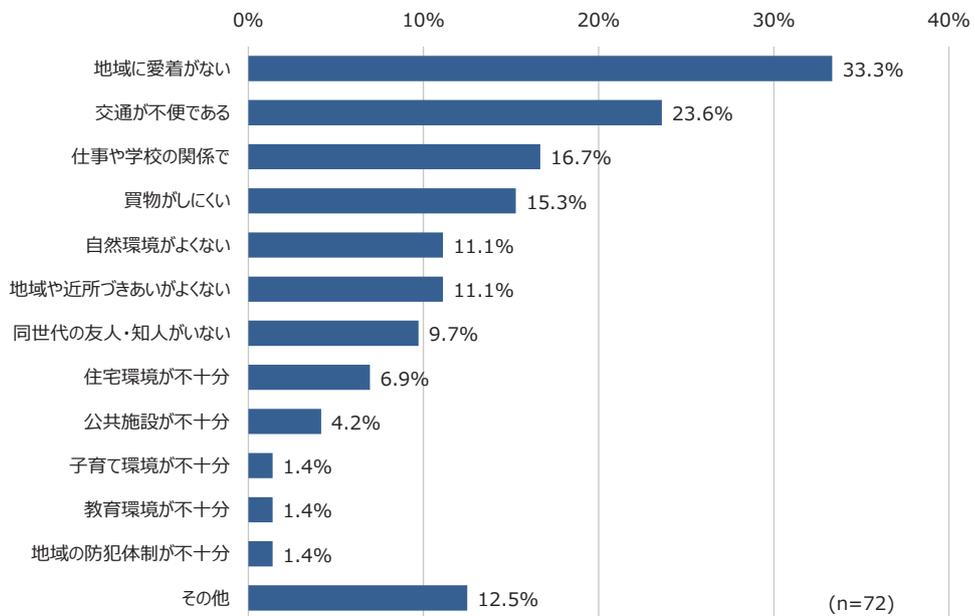
(%)

比率

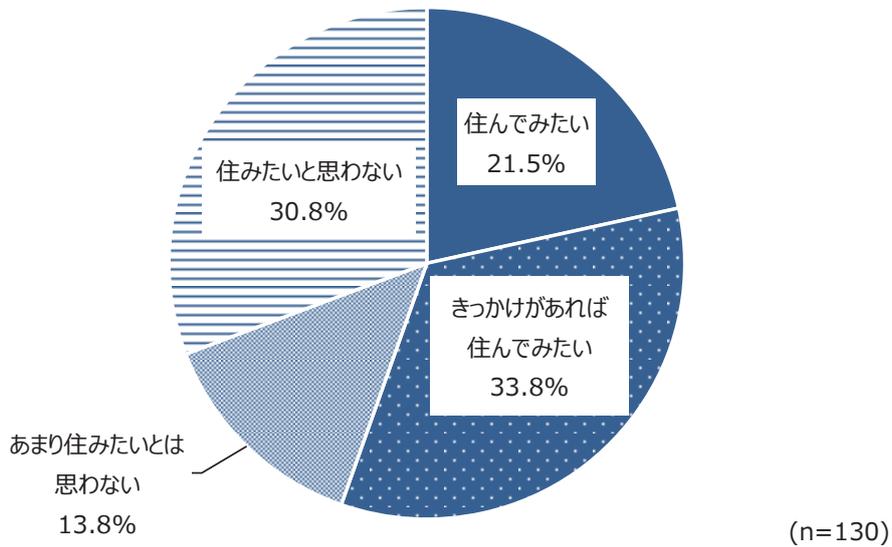
- 全体+10ポイント以上
- 全体+5ポイント以上
- 全体-5ポイント以下
- 全体-10ポイント以下 (n=30以上の場合)

		(n)	自分の家(土地)だから	豊かな自然がある	公共施設が充実	交通が便利である	買物がしやすい	子育て環境が整っている	教育環境が整っている	地域や近所づきあいが良い	地域に愛着がある	仕事や学校の関係で	同世代の友人・知人がいる	治安が良い	その他
全体		228	20.6	21.5	12.7	34.6	35.5	9.2	9.6	8.3	27.2	17.1	11.4	36.4	1.3
まちづくりへの関心	非常に関心がある	20	5.0	35.0	10.0	45.0	50.0	20.0	25.0	20.0	50.0	20.0	35.0	65.0	0.0
	ある程度関心がある	72	29.2	34.7	20.8	37.5	30.6	15.3	15.3	8.3	33.3	19.4	16.7	44.4	0.0
	あまり関心がない	69	18.8	14.5	13.0	34.8	39.1	5.8	2.9	5.8	24.6	20.3	2.9	33.3	0.0
	全く関心がない	67	17.9	10.4	4.5	28.4	32.8	3.0	6.0	7.5	16.4	10.4	7.5	22.4	4.5

①-2 転居したいと思う理由を教えてください。(複数回答、n=72) 【単純集計】

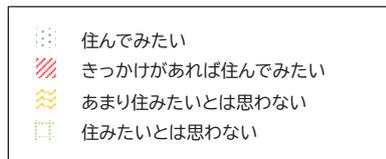


② あなたは今後、多摩・島しょ地域に住みたいと思いますか。  
 (単一回答、n=130 <多摩・島しょ地域に通勤・通学する者向け> )  
**【単純集計】**



17

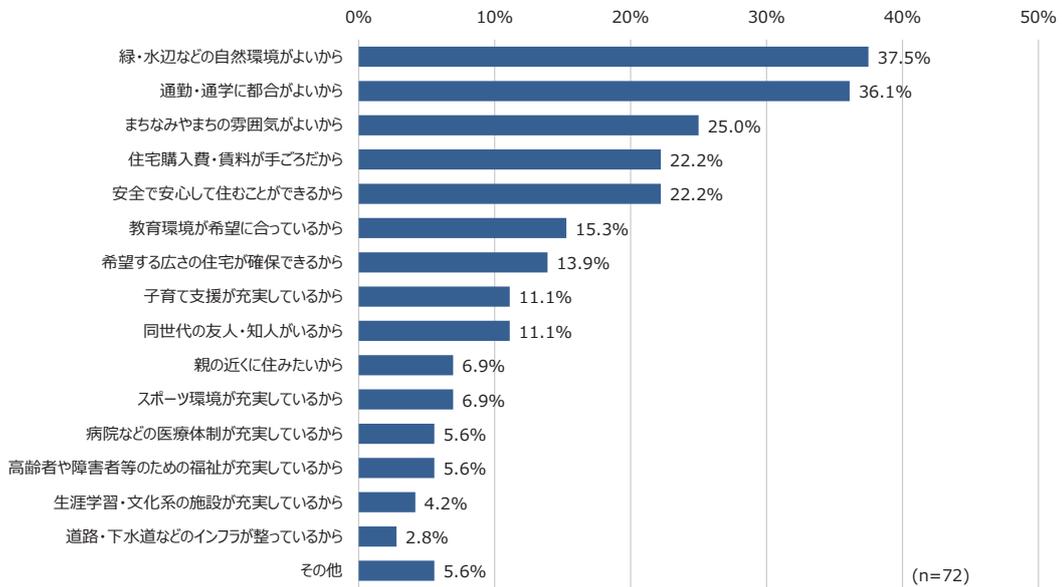
② あなたは今後、多摩・島しょ地域に住みたいと思いますか。  
 (単一回答、n=130 <多摩・島しょ地域に通勤・通学する者向け> )  
**【年代別クロス集計①】**



		(n)	(%)			
全体		130	21.5%	33.8%	13.8%	30.8%
年代	15~22歳	50	24.0%	26.0%	22.0%	28.0%
	23~29歳	31	25.8%	32.3%	3.2%	38.7%
	30~39歳	49	16.3%	42.9%	12.2%	28.6%

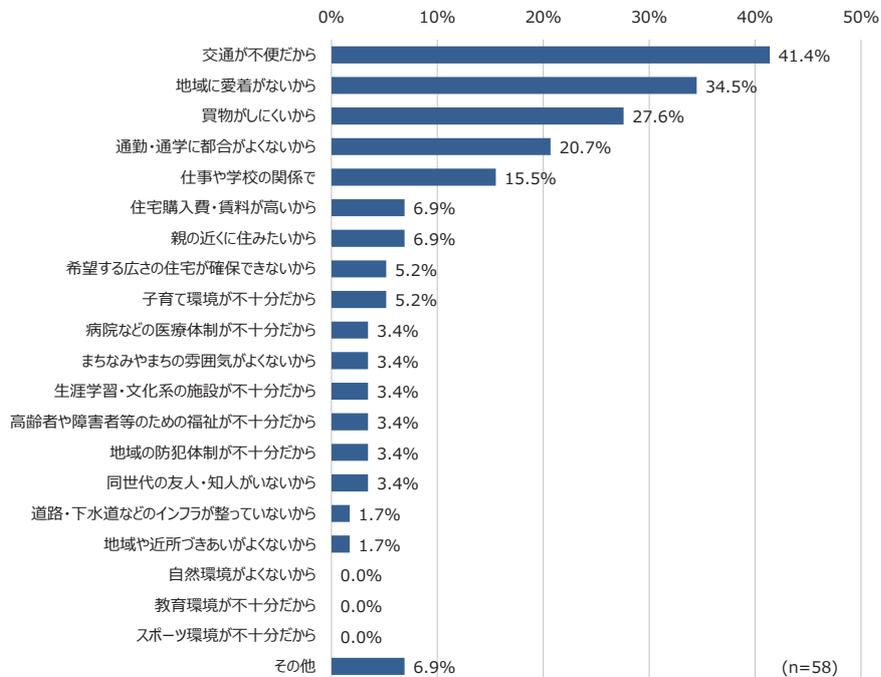
18

②-1 住みたいと思う理由を教えてください。(複数回答、n=72)【単純集計】



19

②-2 住みたいと思わない理由を教えてください。(複数回答、n=58)【単純集計】



20

③ あなたが多摩・島しょ地域を訪れた際の目的を教えてください。複数回訪れている場合は最も多い目的を教えてください。（単一回答、n=470 <多摩・島しょ地域に訪問したことがある者向け>）【単純集計】

(%)

観光	レクリエーション・遊び	買い物・食事	仕事（出張等）	研修・セミナー等	親戚・友人等への訪問	学習・学術調査	スポーツイベント参加・観戦	趣味	ボランティア	その他
23.2	26.4	14.5	7.4	2.1	10.6	1.3	2.1	6.8	0.6	4.9

21

③ あなたが多摩・島しょ地域を訪れた際の目的を教えてください。複数回訪れている場合は最も多い目的を教えてください。（単一回答、n=470 <多摩・島しょ地域に訪問したことがある者向け>）【年代別クロス集計②】

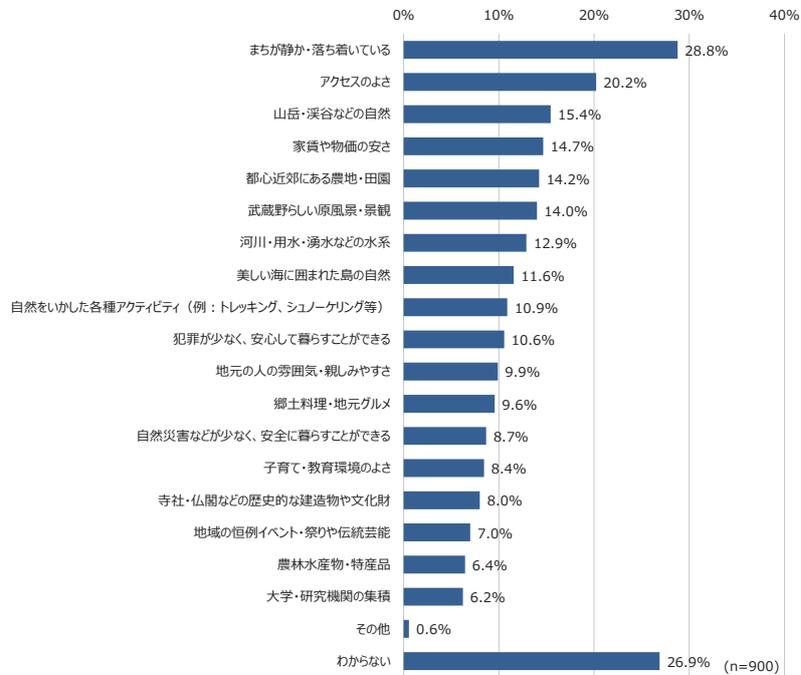
(%)

		該当数	観光	遊び・レクリエーション	買い物・食事	仕事（出張等）	研修・セミナー等	親戚・友人等への訪問	学習・学術調査	スポーツイベント参加・観戦	趣味	ボランティア	その他
全体		470	23.2	26.4	14.5	7.4	2.1	10.6	1.3	2.1	6.8	0.6	4.9
年代	15～22歳	120	27.5	21.7	12.5	4.2	1.7	10.0	2.5	1.7	8.3	0.0	10.0
	23～29歳	169	23.1	30.8	16.0	7.7	1.8	5.9	1.8	2.4	7.7	0.6	2.4
	30～39歳	181	20.4	25.4	14.4	9.4	2.8	15.5	0.0	2.2	5.0	1.1	3.9

比率  
 全体+10ポイント以上  
 全体+5ポイント以上  
 全体-5ポイント以下  
 全体-10ポイント以下  
 (n=30以上の場合)

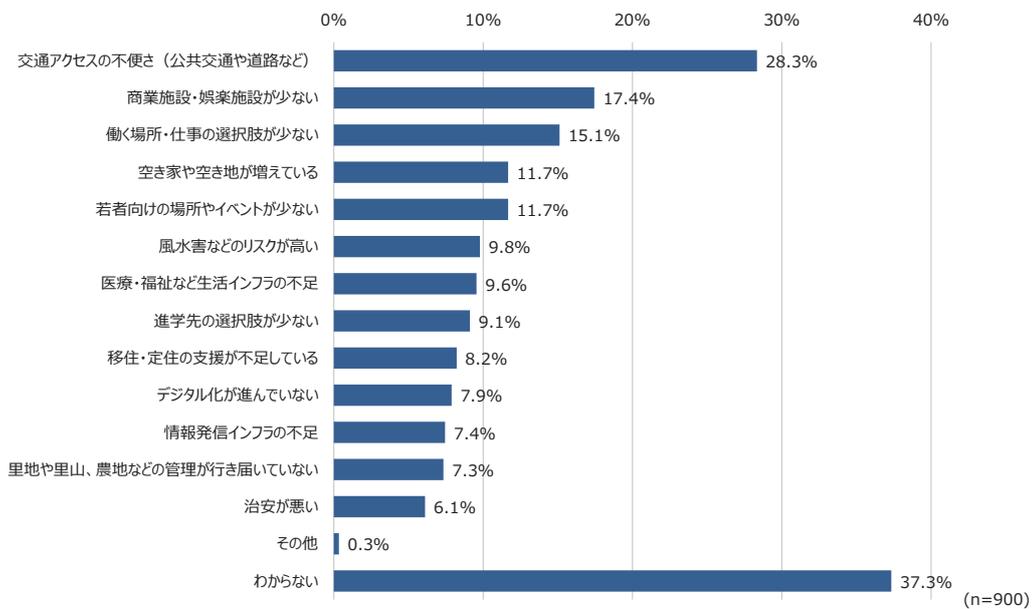
22

④ あなたが感じる、多摩・島しょ地域の魅力を教えてください。  
 (複数回答、n=900)【単純集計】



23

⑤ あなたが感じる、多摩・島しょ地域の課題を教えてください。  
 (複数回答、n=900)【単純集計】



24

⑤ あなたが感じる、多摩・島しょ地域の課題を教えてください。  
(複数回答、n=900)【集計軸別クロス集計】

(%)

比率  
 全体+10ポイント以上  
 全体+5ポイント以上  
 全体-5ポイント以下  
 全体-10ポイント以下  
 (n=30以上の場合)

		(n)	管理地や里山、農地などが行き届いていない	風水害などのリスクが高い	治安が悪い	交通アクセスの不便さ(公共交通や道路など)	商業施設・娯楽施設が少ない	空き家や空き地が増えている	若者向けの場所やイベントが少ない	移住・定住の支援が不足している	進学先の選択肢が少ない	働く場所・仕事の選択肢が少ない	情報発信インフラの不足	医療・福祉など生活インフラの不足	デジタル化が進んでいない	その他	わからない
全体		900	7.3	9.8	6.1	28.3	17.4	11.7	11.7	8.2	9.1	15.1	7.4	9.6	7.9	0.3	37.3
集計軸	多摩・島しょ地域に居住している者/15-22歳	100	5.0	9.0	3.0	27.0	19.0	12.0	16.0	7.0	10.0	8.0	5.0	6.0	5.0	0.0	44.0
	多摩・島しょ地域に居住している者/23-29歳	100	12.0	6.0	3.0	17.0	10.0	10.0	9.0	9.0	7.0	21.0	7.0	7.0	7.0	1.0	43.0
	多摩・島しょ地域に居住している者/30-39歳	100	7.0	7.0	6.0	12.0	14.0	12.0	7.0	3.0	8.0	19.0	6.0	14.0	9.0	1.0	49.0
	多摩・島しょ地域に通勤・通学している者/15-22歳	50	10.0	10.0	8.0	26.0	32.0	12.0	16.0	6.0	20.0	12.0	10.0	14.0	10.0	0.0	38.0
	多摩・島しょ地域に通勤・通学している者/23-29歳	31	6.5	12.9	16.1	29.0	16.1	3.2	16.1	12.9	6.5	16.1	3.2	16.1	19.4	0.0	29.0
	多摩・島しょ地域に通勤・通学している者/30-39歳	49	12.2	12.2	6.1	40.8	18.4	12.2	12.2	6.1	2.0	22.4	14.3	20.4	6.1	0.0	24.5
	多摩・島しょ地域に関心がある者/15-22歳	120	5.0	5.0	5.0	30.8	14.2	11.7	10.0	8.3	7.5	8.3	7.5	2.5	2.5	0.0	45.0
	多摩・島しょ地域に関心がある者/23-29歳	169	7.7	11.8	7.1	38.5	17.8	9.5	15.4	10.1	4.7	17.2	7.7	8.9	9.5	0.6	27.8
	多摩・島しょ地域に関心がある者/30-39歳	181	5.5	13.8	7.2	30.4	20.4	15.5	8.8	9.9	14.9	14.9	7.7	10.5	9.4	0.0	32.6

25

⑤ あなたが感じる、多摩・島しょ地域の課題を教えてください。  
(複数回答、n=900)【まちづくりへの関心別クロス集計】

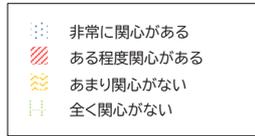
(%)

比率  
 全体+10ポイント以上  
 全体+5ポイント以上  
 全体-5ポイント以下  
 全体-10ポイント以下  
 (n=30以上の場合)

		(n)	管理地や里山、農地などが行き届いていない	風水害などのリスクが高い	治安が悪い	交通アクセスの不便さ(公共交通や道路など)	商業施設・娯楽施設が少ない	空き家や空き地が増えている	若者向けの場所やイベントが少ない	移住・定住の支援が不足している	進学先の選択肢が少ない	働く場所・仕事の選択肢が少ない	情報発信インフラの不足	医療・福祉など生活インフラの不足	デジタル化が進んでいない	その他	わからない
全体		900	7.3	9.8	6.1	28.3	17.4	11.7	11.7	8.2	9.1	15.1	7.4	9.6	7.9	0.3	37.3
まちづくりへの関心	非常に関心がある	103	15.5	20.4	9.7	35.9	17.5	23.3	17.5	13.6	19.4	24.3	15.5	11.7	13.6	1.0	16.5
	ある程度関心がある	286	8.4	10.5	5.9	32.5	21.0	13.3	15.0	10.8	11.2	17.1	8.7	9.4	9.1	0.7	26.2
	あまり関心がない	298	6.0	9.7	7.0	31.9	18.1	10.7	9.4	6.4	7.0	13.1	5.0	10.7	6.7	0.0	36.9
	全く関心がない	213	3.8	3.8	3.3	14.1	11.7	5.2	7.5	4.7	4.2	10.8	5.2	7.0	5.2	0.0	62.9

26

① あなたの「まちづくり」への参加に対する関心を教えてください。  
(単一回答、n=900)【集計軸別クロス集計①】

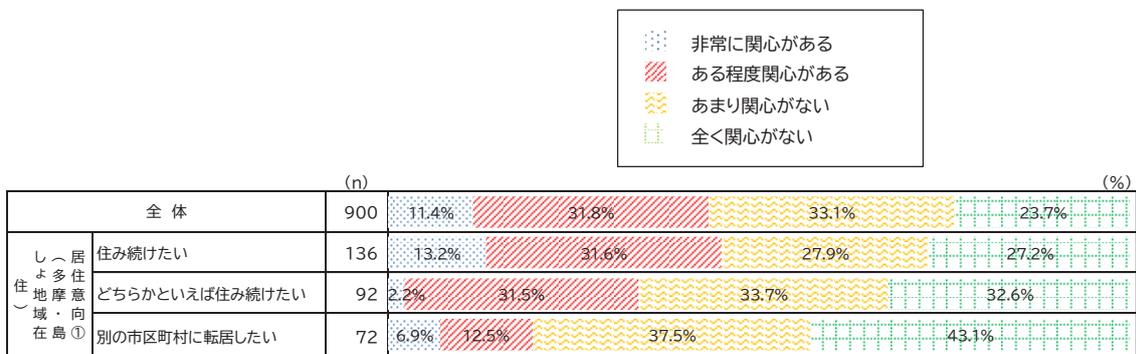


		(n)	(%)			
全体		900	11.4%	31.8%	33.1%	23.7%
集計軸	多摩・島しょ地域に居住している者/15-22歳	100	12.0%	32.0%	29.0%	27.0%
	多摩・島しょ地域に居住している者/23-29歳	100	11.0%	23.0%	30.0%	36.0%
	多摩・島しょ地域に居住している者/30-39歳	100	2.0%	26.0%	37.0%	35.0%
	多摩・島しょ地域に通勤・通学している者/15-22歳	50	16.0%	32.0%	32.0%	20.0%
	多摩・島しょ地域に通勤・通学している者/23-29歳	31	16.1%	12.9%	38.7%	32.3%
	多摩・島しょ地域に通勤・通学している者/30-39歳	49	10.2%	32.7%	34.7%	22.4%
	多摩・島しょ地域に関心がある者/15-22歳	120	14.2%	33.3%	28.3%	24.2%
	多摩・島しょ地域に関心がある者/23-29歳	169	14.2%	34.9%	37.9%	13.0%
	多摩・島しょ地域に関心がある者/30-39歳	181	10.5%	38.7%	32.6%	18.2%

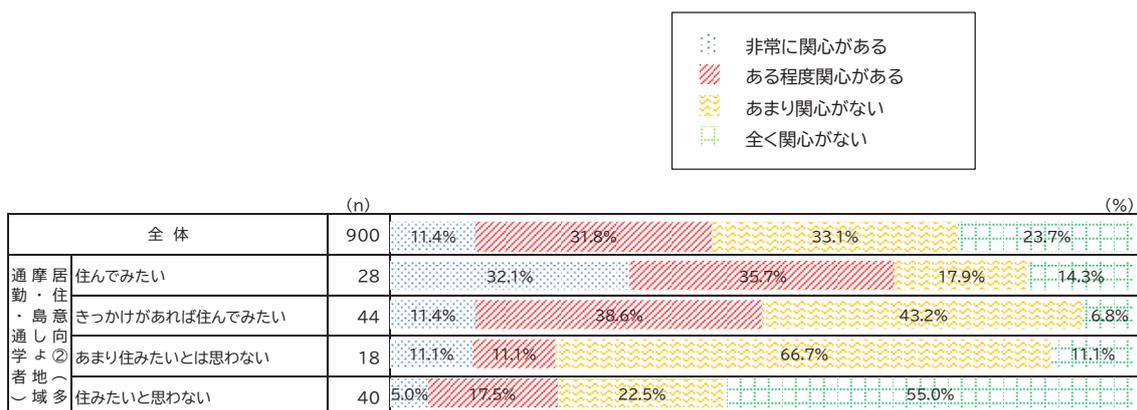
① あなたの「まちづくり」への参加に対する関心を教えてください。  
(単一回答、n=900)【集計軸別クロス集計②】

			(%)			
		該当数	非常に 関心 がある	ある 程度 関心 がある	あ ま り 関 心 が な い	全 く 関 心 が な い
全体		900	11.4	31.8	33.1	23.7
集計軸	多摩・島しょ地域に居住している者/15-22歳	100	12.0	32.0	29.0	27.0
	多摩・島しょ地域に居住している者/23-29歳	100	11.0	23.0	30.0	36.0
	多摩・島しょ地域に居住している者/30-39歳	100	2.0	26.0	37.0	35.0
	多摩・島しょ地域に通勤・通学している者/15-22歳	50	16.0	32.0	32.0	20.0
	多摩・島しょ地域に通勤・通学している者/23-29歳	31	16.1	12.9	38.7	32.3
	多摩・島しょ地域に通勤・通学している者/30-39歳	49	10.2	32.7	34.7	22.4
	多摩・島しょ地域に関心がある者/15-22歳	120	14.2	33.3	28.3	24.2
	多摩・島しょ地域に関心がある者/23-29歳	169	14.2	34.9	37.9	13.0
	多摩・島しょ地域に関心がある者/30-39歳	181	10.5	38.7	32.6	18.2

① あなたの「まちづくり」への参加に対する関心を教えてください。  
 (単一回答、n=900)【居住意向①別クロス集計①】



① あなたの「まちづくり」への参加に対する関心を教えてください。  
 (単一回答、n=900)【居住意向②別クロス集計①】



① あなたの「まちづくり」への参加に対する関心を教えてください。  
 (単一回答、n=900)【居留意向②別クロス集計②】

(%)

比率		該当数	非常に 関心がある	ある程度 関心がある	あまり 関心がない	全く 関心がない
全体		900	11.4	31.8	33.1	23.7
通摩居 勤・住 ・島意 通し向 学よ② 者地へ 域多	住んでみたい	28	32.1	35.7	17.9	14.3
	きっかけがあれば住んでみたい	44	11.4	38.6	43.2	6.8
	あまり住みたいとは思わない	18	11.1	11.1	66.7	11.1
	住みたいと思わない	40	5.0	17.5	22.5	55.0

31

参考資料

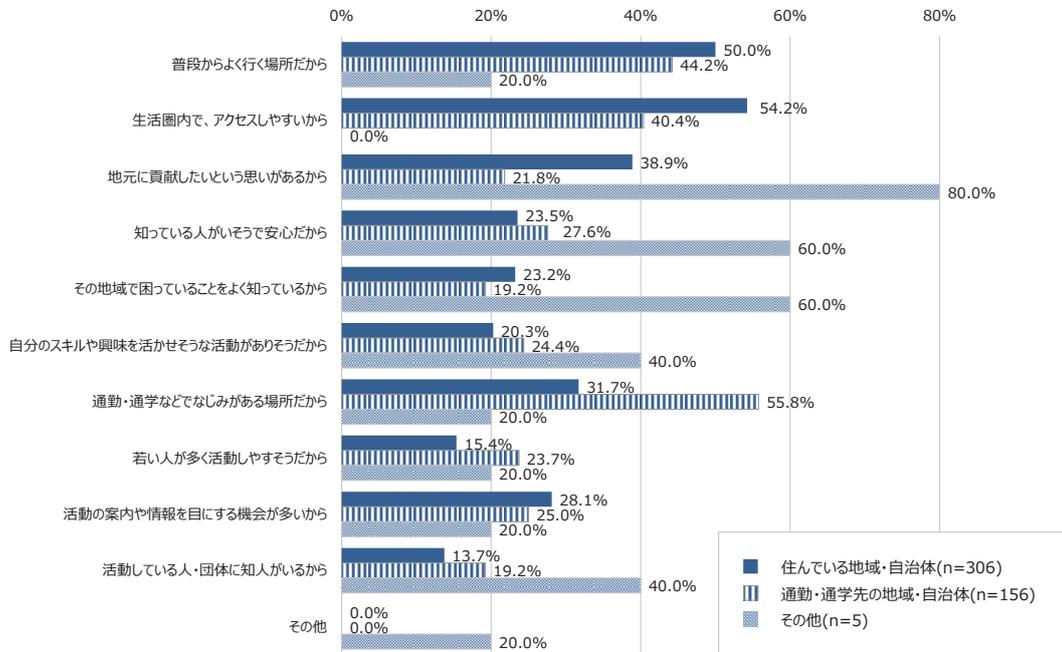
①-1 まちづくりに参加する際、活動範囲として想定される場所のイメージを教えてください。  
 (複数回答、n=389<関心層向け>)【集計軸別クロス集計】

(%)

比率		(n)	住んで いる 地域・ 自治体	治通 体動 ・通 学先 の地 域・ 自	その 他	わ か ら な い
全体		389	78.7	40.1	1.3	12.1
集 計 軸	多摩・島しよ地域に居住している者/15-22歳	44	72.7	50.0	0.0	13.6
	多摩・島しよ地域に居住している者/23-29歳	34	55.9	29.4	5.9	23.5
	多摩・島しよ地域に居住している者/30-39歳	28	75.0	17.9	0.0	25.0
	多摩・島しよ地域に通勤・通学している者/15-22歳	24	66.7	37.5	0.0	16.7
	多摩・島しよ地域に通勤・通学している者/23-29歳	9	66.7	33.3	0.0	22.2
	多摩・島しよ地域に通勤・通学している者/30-39歳	21	95.2	38.1	0.0	4.8
	多摩・島しよ地域に関心がある者/15-22歳	57	84.2	50.9	0.0	7.0
	多摩・島しよ地域に関心がある者/23-29歳	83	84.3	47.0	2.4	7.2
	多摩・島しよ地域に関心がある者/30-39歳	89	83.1	34.8	1.1	10.1

32

①-2 活動範囲として想定される場所を選んだ理由を教えてください。(複数回答)  
【単純集計】



33

①-3 あなたが関心を持っている、地域や社会の具体的な課題を教えてください。また、関心のある課題のうち、あなた自身が課題解決に向けた活動に参加しているものがあれば教えてください。(複数回答、n=389<関心層向け>)  
【集計軸別クロス集計①<関心のある課題>】

		(n)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)
		(n)	33.9	32.1	32.4	33.9	26.7	30.8	37.5	19.3	36.5	35.5	30.6	1.0	3.1	10.8	
集計軸	全体	389	33.9	32.1	32.4	33.9	26.7	30.8	37.5	19.3	36.5	35.5	30.6	1.0	3.1	10.8	
	多摩・島しょ地域に居住している者/15-22歳	44	40.9	34.1	38.6	45.5	38.6	40.9	36.4	25.0	40.9	36.4	31.8	0.0	0.0	13.6	
	多摩・島しょ地域に居住している者/23-29歳	34	14.7	17.6	20.6	17.6	11.8	17.6	26.5	11.8	35.3	23.5	17.6	2.9	5.9	14.7	
	多摩・島しょ地域に居住している者/30-39歳	28	32.1	39.3	32.1	14.3	14.3	39.3	39.3	7.1	28.6	28.6	14.3	0.0	17.9	17.9	
	多摩・島しょ地域に通勤・通学している者/15-22歳	24	29.2	20.8	25.0	20.8	20.8	20.8	33.3	16.7	33.3	37.5	37.5	0.0	4.2	12.5	
	多摩・島しょ地域に通勤・通学している者/23-29歳	9	33.3	0.0	33.3	55.6	33.3	33.3	33.3	0.0	33.3	33.3	22.2	0.0	0.0	0.0	
	多摩・島しょ地域に通勤・通学している者/30-39歳	21	33.3	28.6	38.1	42.9	28.6	28.6	47.6	19.0	23.8	28.6	28.6	0.0	9.5	9.5	
	多摩・島しょ地域に関心がある者/15-22歳	57	54.4	35.1	42.1	43.9	36.8	42.1	45.6	21.1	47.4	42.1	35.1	0.0	0.0	10.5	
	多摩・島しょ地域に関心がある者/23-29歳	83	33.7	38.6	34.9	36.1	32.5	27.7	38.6	27.7	44.6	39.8	42.2	3.6	1.2	8.4	
	多摩・島しょ地域に関心がある者/30-39歳	89	27.0	33.7	25.8	31.5	19.1	27.0	34.8	16.9	27.0	34.8	25.8	0.0	1.1	9.0	

34

①-3 あなたが興味を持っている、地域や社会の具体的な課題を教えてください。また、関心のある課題のうち、あなた自身が課題解決に向けた活動に参加しているものがあれば教えてください。(複数回答、n=389<関心層向け>)  
**【集計軸別クロス集計①<活動に参加しているもの>】**

		(n)	10.8	7.2	5.9	9.0	6.2	7.2	8.5	8.0	13.4	11.8	10.0	0.0	3.3	47.0
全体		389	10.8	7.2	5.9	9.0	6.2	7.2	8.5	8.0	13.4	11.8	10.0	0.0	3.3	47.0
集計軸	多摩・島しょ地域に居住している者/15-22歳	44	15.9	9.1	9.1	9.1	13.6	9.1	4.5	4.5	13.6	11.4	11.4	0.0	0.0	56.8
	多摩・島しょ地域に居住している者/23-29歳	34	0.0	2.9	5.9	8.8	2.9	0.0	8.8	2.9	11.8	11.8	2.9	0.0	2.9	47.1
	多摩・島しょ地域に居住している者/30-39歳	28	7.1	3.6	7.1	3.6	3.6	7.1	7.1	3.6	10.7	7.1	7.1	0.0	17.9	50.0
	多摩・島しょ地域に通勤・通学している者/15-22歳	24	12.5	8.3	0.0	4.2	4.2	4.2	0.0	12.5	8.3	4.2	16.7	0.0	4.2	45.8
	多摩・島しょ地域に通勤・通学している者/23-29歳	9	22.2	0.0	22.2	33.3	11.1	22.2	11.1	0.0	22.2	11.1	11.1	0.0	0.0	22.2
	多摩・島しょ地域に通勤・通学している者/30-39歳	21	9.5	4.8	0.0	4.8	0.0	4.8	9.5	0.0	0.0	0.0	4.8	0.0	4.8	57.1
	多摩・島しょ地域に関心がある者/15-22歳	57	12.3	5.3	8.8	8.8	8.8	14.0	14.0	7.0	22.8	17.5	7.0	0.0	1.8	50.9
	多摩・島しょ地域に関心がある者/23-29歳	83	10.8	7.2	6.0	8.4	7.2	6.0	7.2	12.0	14.5	13.3	12.0	0.0	1.2	44.6
	多摩・島しょ地域に関心がある者/30-39歳	89	11.2	11.2	3.4	11.2	3.4	5.6	10.1	11.2	11.2	13.5	12.4	0.0	3.4	41.6

①-5 活動に参加することへの不安や参加の妨げになっていることがあれば教えてください。(複数回答、n=196) **【居住意向①別クロス集計】**

		(n)	36.2	30.6	31.6	24.5	31.1	25.0	21.9	34.7	10.7	13.3	1.0
全体		196	36.2	30.6	31.6	24.5	31.1	25.0	21.9	34.7	10.7	13.3	1.0
しよ地摩意向在島①	住み続けたい	30	13.3	20.0	26.7	16.7	20.0	20.0	16.7	26.7	16.7	30.0	0.0
	どちらかといえば住み続けたい	20	45.0	20.0	40.0	35.0	35.0	25.0	25.0	50.0	10.0	10.0	0.0
	別の市区町村に転居したい	11	36.4	27.3	36.4	18.2	36.4	18.2	18.2	27.3	0.0	27.3	0.0

② 関心がない理由を教えてください。(複数回答、n=511)【集計軸別クロス集計】

(%)

比率

- 全体+10ポイント以上
- 全体+5ポイント以上
- 全体-5ポイント以下
- 全体-10ポイント以下

(n=30以上の場合)

		(n)	知ら どの らな いう かな ら活 動が ある か	時 間 的 な 余 裕 が な い か ら	事 業 の 事 情 ( 仕 事 、 家 庭 の 事 情 、 通 院 等 ) が あ る か ら	家 庭 の 事 情 ( 仕 事 、 家 庭 の 事 情 、 通 院 等 ) が あ る か ら	経 費 や 手 間 が か か り す ぎ な い か ら	少 な い か ら 参 加 で き る 活 動 が	気 軽 に 参 加 で き る 活 動 が	い か ら の 友 人 ・ 仲 間 が い な い	同 好 の 友 人 ・ 仲 間 が い な い	ら 近 く に 活 動 場 所 が な い か	か ら と 付 き 合 う の が 面 倒 だ	そ の 他
全 体		511	36.6	34.1	9.2	14.3	14.5	13.7	13.1	38.0	1.0			
集 計 軸	多摩・島しょ地域に居住している者/15-22歳	56	42.9	26.8	10.7	12.5	19.6	10.7	10.7	26.8	3.6			
	多摩・島しょ地域に居住している者/23-29歳	66	24.2	25.8	4.5	16.7	12.1	7.6	7.6	47.0	0.0			
	多摩・島しょ地域に居住している者/30-39歳	72	30.6	29.2	8.3	12.5	8.3	11.1	8.3	50.0	1.4			
	多摩・島しょ地域に通勤・通学している者/15-22歳	26	34.6	46.2	7.7	15.4	19.2	23.1	19.2	34.6	0.0			
	多摩・島しょ地域に通勤・通学している者/23-29歳	22	40.9	31.8	0.0	9.1	4.5	13.6	9.1	59.1	0.0			
	多摩・島しょ地域に通勤・通学している者/30-39歳	28	28.6	39.3	10.7	7.1	14.3	7.1	14.3	46.4	0.0			
	多摩・島しょ地域に関心がある者/15-22歳	63	49.2	33.3	7.9	9.5	15.9	19.0	14.3	34.9	3.2			
	多摩・島しょ地域に関心がある者/23-29歳	86	44.2	31.4	9.3	19.8	18.6	16.3	16.3	30.2	0.0			
	多摩・島しょ地域に関心がある者/30-39歳	92	32.6	46.7	15.2	16.3	14.1	15.2	17.4	31.5	0.0			

37

② 関心がない理由を教えてください。(複数回答、n=511)【居留意向①別クロス集計】

(%)

比率

- 全体+10ポイント以上
- 全体+5ポイント以上
- 全体-5ポイント以下
- 全体-10ポイント以下

(n=30以上の場合)

		(n)	知ら どの らな いう かな ら活 動が ある か	時 間 的 な 余 裕 が な い か ら	事 業 の 事 情 ( 仕 事 、 家 庭 の 事 情 、 通 院 等 ) が あ る か ら	家 庭 の 事 情 ( 仕 事 、 家 庭 の 事 情 、 通 院 等 ) が あ る か ら	経 費 や 手 間 が か か り す ぎ な い か ら	少 な い か ら 参 加 で き る 活 動 が	気 軽 に 参 加 で き る 活 動 が	い か ら の 友 人 ・ 仲 間 が い な い	同 好 の 友 人 ・ 仲 間 が い な い	ら 近 く に 活 動 場 所 が な い か	か ら と 付 き 合 う の が 面 倒 だ	そ の 他
全 体		511	36.6	34.1	9.2	14.3	14.5	13.7	13.1	38.0	1.0			
し よ 多 摩 地 域 ・ 向 在 島 ①	住み続けたい	75	36.0	17.3	5.3	9.3	13.3	9.3	4.0	36.0	2.7			
	どちらかといえば住み続けたい	61	29.5	32.8	11.5	14.8	9.8	8.2	4.9	44.3	1.6			
	別の市区町村に転居したい	58	29.3	34.5	6.9	19.0	15.5	12.1	19.0	48.3	0.0			

38

① 次に挙げるまちづくり活動について、あなたが参加したいと思う活動を教えてください。  
(複数回答、n=900)【集計軸別クロス集計】

		(n)	比率 (%)														
			ケ ー ト を 対 象 と し た ア ン ケ ー ス	若 者 の 利 用	等 等 の オ ン ラ イ ン ツ ー ル	g r a m 、 T i k T o k	S N S ( X や I n s t a	自 治 体 が 設 け る 若 者 向 け	会 ・ 審 議 会 へ の 参 加	若 者 を 対 象 に し た 参 加	参 加 生 と の 意 見 交 換 の 場 ・ 大 学	若 者 の 会 議 や 高 校 生 ・ 大 学 生 の 参 加	た 地 域 課 題 の 解 決 等 に 向 け	た 地 域 課 題 の 解 決 等 に 向 け	た 地 域 課 題 の 解 決 等 に 向 け	そ の 他	わ か ら な い
全体		900	32.9			18.3	11.6	12.0	14.8	12.8	0.2	43.0					
集 計 軸	多摩・島しょ地域に居住している者/15-22歳	100	39.0			22.0	16.0	13.0	12.0	13.0	0.0	43.0					
	多摩・島しょ地域に居住している者/23-29歳	100	17.0			14.0	9.0	8.0	12.0	9.0	0.0	54.0					
	多摩・島しょ地域に居住している者/30-39歳	100	18.0			9.0	6.0	5.0	9.0	10.0	1.0	69.0					
	多摩・島しょ地域に通勤・通学している者/15-22歳	50	40.0			18.0	18.0	16.0	16.0	18.0	0.0	34.0					
	多摩・島しょ地域に通勤・通学している者/23-29歳	31	32.3			6.5	6.5	9.7	9.7	12.9	0.0	35.5					
	多摩・島しょ地域に通勤・通学している者/30-39歳	49	26.5			10.2	6.1	10.2	18.4	18.4	2.0	49.0					
	多摩・島しょ地域に関心がある者/15-22歳	120	42.5			23.3	12.5	13.3	17.5	14.2	0.0	35.8					
	多摩・島しょ地域に関心がある者/23-29歳	169	42.0			22.5	14.2	16.6	18.3	17.2	0.0	34.9					
多摩・島しょ地域に関心がある者/30-39歳	181	31.5			21.0	11.0	12.2	15.5	8.3	0.0	37.0						

39

① 次に挙げるまちづくり活動について、あなたが参加したいと思う活動を教えてください。  
(複数回答、n=900)【居住意向①別クロス集計】

		(n)	比率 (%)														
			ケ ー ト を 対 象 と し た ア ン ケ ー ス	若 者 の 利 用	等 等 の オ ン ラ イ ン ツ ー ル	g r a m 、 T i k T o k	S N S ( X や I n s t a	自 治 体 が 設 け る 若 者 向 け	会 ・ 審 議 会 へ の 参 加	若 者 を 対 象 に し た 参 加	参 加 生 と の 意 見 交 換 の 場 ・ 大 学	若 者 の 会 議 や 高 校 生 ・ 大 学 生 の 参 加	た 地 域 課 題 の 解 決 等 に 向 け	た 地 域 課 題 の 解 決 等 に 向 け	た 地 域 課 題 の 解 決 等 に 向 け	そ の 他	わ か ら な い
全体		900	32.9			18.3	11.6	12.0	14.8	12.8	0.2	43.0					
し よ 地 域 ・ 向 在 島 ①	住み続けたい	136	26.5			17.6	10.3	8.8	11.0	8.8	0.0	53.7					
	どちらかといえば住み続けたい	92	22.8			14.1	9.8	8.7	8.7	13.0	0.0	56.5					
	別の市区町村に転居したい	72	23.6			11.1	11.1	8.3	13.9	11.1	1.4	56.9					

40

① 次に挙げるまちづくり活動について、あなたが参加したいと思う活動を教えてください。  
(複数回答、n=900) 【まちづくりへの関心別クロス集計】

(%)

比率

- 全体+10ポイント以上
- 全体+5ポイント以上
- 全体-5ポイント以下
- 全体-10ポイント以下 (n=30以上の場合)

		(n)	ケ ー ト を 対 象 と し た 回 答	若 者 の 利 用 オ ン ラ イ ン ツ ー ル	等 等 の や オ ン ラ イ ン ツ ー ル	g r a m m a t i o n k a	S a m e X I n t e r n a t i o n a l	自 治 体 が 設 け る 若 者 向 け	会 議 対 象 に し た 委 員	若 者 を 対 象 と し た 委 員	参 加 の 意 見 交 換 の 場 合	若 者 の 会 議 や 高 校 生 ・ 大 学	地 域 課 題 の 解 決 等 に 向 け	地 域 課 題 の 実 践 の 参 加 に 向 け	そ の 他	わ か ら な い
全 体		900	32.9	18.3	11.6	12.0	14.8	12.8	0.2	43.0						
ま ち づ く り へ の 関 心	非常に関心がある	103	56.3	45.6	39.8	32.0	45.6	35.0	0.0	9.7						
	ある程度関心がある	286	41.3	26.9	15.0	17.5	20.6	17.5	0.0	24.8						
	あまり関心がない	298	31.9	12.1	5.4	6.0	7.0	4.4	0.3	50.0						
	全く関心がない	213	11.7	2.3	1.9	3.3	2.8	7.5	0.5	73.7						

41

② まちづくりに役立つと考えられるスキルやノウハウに関して、得意である、やったことがあるものについて教えてください。(複数回答、n=900) 【集計軸別クロス集計】

(%)

比率

- 全体+10ポイント以上
- 全体+5ポイント以上
- 全体-5ポイント以下
- 全体-10ポイント以下 (n=30以上の場合)

		(n)	A N S を 活 用 し た デ ジ タ ル 情 報 メ ド イ	動 画 ・ 画 像 の 撮 影 ・ 編 集	イ ン タ ビ ュ ー の 発 見 表 シ ョ ン や ア プ レ ゼ ン テ ィ ョ ン	イ ン タ ビ ュ ー の 運 営	活 か し て ア イ デ ア を 考 え る	デ ザ イ ン の 考 え を 考 え る	二 編 カ ー シ ョ ン の 人 と コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン	理 解 が あ る	国 際 交 流 に 関 心 が あ る	調 査 や フ ィ ル ド ウ を 通 じ て 地 域 の こ と を 調 査	ロ グ ラ フ イ ン グ ラ フ の 開 発 、 プ ロ ト タイプ の 開 発 、 プ ロ ト タイプ の 開 発 、 プ ロ ト タイプ の 開 発	S D G の サ ス テ ナ ビ ル イ ン イ ニ シ ア ン ス の 研 究 、 活 動	地 域 課 題 や 社 会 の 問 題 に 対 し て 主 体 的 に 関 わ る	的 や 目 標 を 達 成 す る 経 験 に 関 わ る	詳 し い 若 者 文 化 に 関 わ る	社 会 課 題 の 解 決 や 地 域 活 動 の 経 験	新 し い こ と に も 柔 軟 に 適 応 す る	そ の 他	あ て は ま る も の は な い
全 体		900	12.4	12.4	10.6	9.7	10.9	13.0	8.0	7.6	5.8	9.4	8.9	14.6	8.2	7.9	11.3	0.2	47.1		
集 計 軸	多摩・島しょ地域に居住している者/15-22歳	100	14.0	16.0	16.0	5.0	12.0	11.0	6.0	11.0	3.0	9.0	12.0	12.0	9.0	8.0	13.0	0.0	49.0		
	多摩・島しょ地域に居住している者/23-29歳	100	9.0	8.0	6.0	7.0	3.0	9.0	1.0	8.0	4.0	10.0	4.0	9.0	3.0	4.0	5.0	0.0	52.0		
	多摩・島しょ地域に居住している者/30-39歳	100	11.0	10.0	5.0	9.0	10.0	5.0	5.0	3.0	2.0	5.0	2.0	7.0	3.0	5.0	4.0	1.0	69.0		
	多摩・島しょ地域に通勤・通学している者/15-22歳	50	10.0	16.0	10.0	8.0	4.0	8.0	10.0	4.0	6.0	8.0	6.0	14.0	6.0	2.0	10.0	0.0	40.0		
	多摩・島しょ地域に通勤・通学している者/23-29歳	31	6.5	3.2	19.4	12.9	12.9	16.1	9.7	3.2	6.5	16.1	16.1	16.1	6.5	6.5	6.5	0.0	35.5		
	多摩・島しょ地域に通勤・通学している者/30-39歳	49	6.1	10.2	14.3	12.2	6.1	16.3	10.2	12.2	0.0	2.0	4.1	20.4	6.1	6.1	16.3	0.0	44.9		
	多摩・島しょ地域に関心がある者/15-22歳	120	16.7	15.0	12.5	13.3	14.2	11.7	6.7	12.5	6.7	11.7	8.3	15.8	17.5	5.0	17.5	0.8	41.7		
	多摩・島しょ地域に関心がある者/23-29歳	169	19.5	17.2	10.7	14.8	15.4	20.1	14.8	7.7	10.7	15.4	13.6	18.9	13.6	14.2	12.4	0.0	39.1		
	多摩・島しょ地域に関心がある者/30-39歳	181	8.3	9.4	9.4	6.1	11.6	14.9	7.7	5.0	6.6	6.1	10.5	16.6	3.9	9.9	12.7	0.0	47.0		

42

② まちづくりに役立つと考えられるスキルやノウハウに関して、得意である、やったことがあるものについて教えてください。(複数回答、n=900)  
【あなたが参加したいと思う活動(問(3)①)別クロス集計】

(%)

比率  
■ 全体+10ポイント以上  
■ 全体+5ポイント以上  
■ 全体-5ポイント以下  
■ 全体-10ポイント以下  
 (n=30以上の場合)

		(n)	ア SNSやデジタル発信	動画・画像の撮影・編集	プレゼンテーションやア	のイベントやプロジェクト	活かしてアイデアを考え	幅広い世代の人とコミュ	理解がある	国際交流に関心がある	を調べて地域のことを調	調査やフィールドワーク	ログラムやアプリ開発、プ	SDGsやサステナビリティ	地域課題や社会的な問題に	的や目標を達成する経験目	詳しい若者文化について	社会課題の解決や地域活	新しいことにも柔軟に	その他	あてはまるものはない
全体		900	12.4	12.4	10.6	9.7	10.9	13.0	8.0	7.6	5.8	9.4	8.9	14.6	8.2	7.9	11.3	0.2	47.1		
参加したいと思うまちづくり活動	若者を対象としたアンケート調査への回答	296	20.3	25.0	18.2	17.9	19.9	21.3	16.2	12.5	10.5	13.5	14.5	25.3	18.2	12.2	18.2	0.3	26.4		
	自治体が設ける若者向けSNS(XやInstagram, TikTok等)やオンラインツール等の利用	165	35.2	30.9	21.2	22.4	29.7	29.1	20.0	20.0	14.5	22.4	23.6	32.1	22.4	21.2	23.6	0.6	14.5		
	若者を対象にした委員会・審議会への参加	104	30.8	30.8	31.7	27.9	28.8	35.6	25.0	24.0	20.2	29.8	32.7	32.7	23.1	26.0	28.8	0.0	9.6		
	若者会議や高校生・大学生との意見交換の場への参加	108	27.8	26.9	34.3	21.3	28.7	40.7	24.1	22.2	20.4	25.9	28.7	36.1	24.1	25.0	27.8	0.0	9.3		
	地域課題の解決等に向けた検討・提案	133	27.8	24.8	27.1	24.8	26.3	31.6	21.1	19.5	15.0	22.6	26.3	36.1	20.3	24.1	29.3	0.0	12.0		
	地域課題の解決等に向けた試行・実践への参加	115	25.2	25.2	20.0	21.7	21.7	32.2	20.9	20.9	13.0	17.4	27.0	33.0	14.8	19.1	22.6	0.0	20.9		
	その他	2	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	50.0	
	わからない	387	3.4	3.9	2.8	2.8	3.4	4.7	1.8	1.6	1.3	3.1	1.6	6.2	1.8	2.3	3.6	0.0	79.1		

43

③ 自治体が発信するまちづくりに係る情報を把握、収集する際に活用したい媒体があれば教えてください。(複数回答、n=900)【集計軸別クロス集計】

(%)

比率  
■ 全体+10ポイント以上  
■ 全体+5ポイント以上  
■ 全体-5ポイント以下  
■ 全体-10ポイント以下  
 (n=30以上の場合)

		(n)	公式ホームページ	広報紙(デジタル)	市区町村からのメール配	市区町村公式LINE	市区町村公式X(旧:Twitter)	市区町村公式Instagram	市区町村公式専用アプリ	市区町村公式YouTube	その他SNS(TikTok等)	広報紙(紙)	回覧板・チラシ	個別の通知	その他	わからない
全体		900	38.4	14.6	7.6	14.6	20.0	19.4	5.9	13.4	8.6	12.8	7.9	2.1	0.2	38.9
集計軸	多摩・島しょ地域に居住している者/15-22歳	100	39.0	14.0	8.0	15.0	16.0	19.0	8.0	14.0	14.0	12.0	6.0	0.0	0.0	42.0
	多摩・島しょ地域に居住している者/23-29歳	100	23.0	9.0	3.0	9.0	11.0	10.0	2.0	10.0	6.0	7.0	3.0	2.0	0.0	55.0
	多摩・島しょ地域に居住している者/30-39歳	100	26.0	12.0	3.0	6.0	12.0	8.0	2.0	5.0	2.0	12.0	8.0	4.0	1.0	59.0
	多摩・島しょ地域に通勤・通学している者/15-22歳	50	46.0	14.0	4.0	6.0	16.0	24.0	6.0	12.0	6.0	8.0	2.0	0.0	0.0	36.0
	多摩・島しょ地域に通勤・通学している者/23-29歳	31	32.3	6.5	6.5	3.2	19.4	19.4	9.7	9.7	12.9	6.5	6.5	0.0	0.0	38.7
	多摩・島しょ地域に通勤・通学している者/30-39歳	49	42.9	16.3	10.2	18.4	24.5	14.3	2.0	14.3	0.0	24.5	6.1	4.1	0.0	36.7
	多摩・島しょ地域に関心がある者/15-22歳	120	44.2	16.7	9.2	14.2	25.0	22.5	5.8	16.7	15.0	12.5	14.2	2.5	0.0	37.5
	多摩・島しょ地域に関心がある者/23-29歳	169	43.2	16.6	10.7	21.3	26.6	26.0	7.1	16.6	11.8	16.6	10.1	2.4	0.0	28.4
	多摩・島しょ地域に関心がある者/30-39歳	181	43.1	17.1	8.8	19.3	22.1	23.2	8.3	15.5	5.5	12.7	7.7	2.2	0.6	29.3

44

④ 若者の意見を施策や事業等に反映させるため、行政に取り組んでほしいと思うアイデアがあれば教えてください。(複数回答、n=900)【集計軸別クロス集計】

(%)

比率

- 全体+10ポイント以上
- 全体+5ポイント以上
- 全体-5ポイント以下
- 全体-10ポイント以下 (n=30以上の場合)

		(n)	の若者 の予 算に よる 措 置	グ ・ 支 援 等 の 企 画 ・ 提 案 ハ	若 者 と 地 域 団 体 ・ マ ・ ツ ・ P ・ チ ン	参 加 の 仕 組 み 整 備	S N S や オ ン ラ イ ン ツ と	配 置 の 仲 介 役 者 と	地 域 コ ー デ イ ネ ー タ ー の	づ け ・ 表 彰 な ど に よ る 動 機	若 者 の 活 動 成 果 の 可 視 化	そ の 他	わ か ら な い
全 体		900	24.8	19.1	28.6	16.8	14.9	0.2	44.7				
集 計 軸	多摩・島しょ地域に居住している者/15-22歳	100	25.0	18.0	28.0	9.0	18.0	0.0	51.0				
	多摩・島しょ地域に居住している者/23-29歳	100	13.0	10.0	19.0	15.0	12.0	0.0	56.0				
	多摩・島しょ地域に居住している者/30-39歳	100	14.0	9.0	12.0	16.0	9.0	0.0	72.0				
	多摩・島しょ地域に通勤・通学している者/15-22歳	50	24.0	14.0	40.0	12.0	8.0	0.0	36.0				
	多摩・島しょ地域に通勤・通学している者/23-29歳	31	22.6	16.1	12.9	29.0	16.1	0.0	48.4				
	多摩・島しょ地域に通勤・通学している者/30-39歳	49	24.5	26.5	38.8	20.4	12.2	0.0	42.9				
	多摩・島しょ地域に関心がある者/15-22歳	120	32.5	21.7	27.5	15.8	15.0	0.8	37.5				
	多摩・島しょ地域に関心がある者/23-29歳	169	34.3	27.2	39.6	19.5	18.9	0.0	34.3				
	多摩・島しょ地域に関心がある者/30-39歳	181	23.8	21.0	30.4	18.8	16.6	0.6	36.5				

45

(1)①-1 住み続けたいと思う理由を教えてください。(複数回答、n=228)【その他】

NO	意見
1	住んでいて特に不満がないから
2	なし
3	なんとなく

(1)①-2 転居したいと思う理由を教えてください。(複数回答、n=72)【その他】

NO	意見
1	もう少し都心に近い場所に住みたい
2	風水的に優れた場所へ住みたい
3	生保の管轄が練馬だから
4	高い
5	親に田舎と言われた
6	地元就職
7	一人暮らしをしたいから。
8	生まれ育った地域だからこそ、地元以外の場所に将来は居住したい
9	よく考えると分からない

46

(1)②-1 住みたいと思う理由を教えてください。(複数回答、n=72)【その他】

NO	意見
1	元々住んでいた
2	昔住んでたから
3	楽しそうだから
4	都内でも落ち着いた雰囲気だから

(1)②-2 住みたいと思わない理由を教えてください。(複数回答、n=58)【その他】

NO	意見
1	今のところで十分だから
2	なんとなく
3	既に持ち家があるから引越しはしない
4	持ち家を買ったので引っ越したくないから

47

(1)③ あなたが多摩・島しょ地域を訪れた際の目的を教えてください。複数回訪れている場合は最も多い目的を教えてください。(単一回答、n=470)【その他】

NO	意見
1	なし
2	オープンキャンパス
3	帰省
4	通学
5	会場調査
6	耳鼻咽喉科
7	お墓参り
8	通学
9	受験
10	学校見学
11	オープンキャンパス
12	この中にはない
13	大学に通うため
14	部活
15	住んでいた
16	観劇

48

(1)③ あなたが多摩・島しょ地域を訪れた際の目的を教えてください。複数回訪れている場合は最も多い目的を教えてください。(単一回答、n=470)【その他】

NO	意見
17	葬式
18	部活動
19	自然を感じに
20	当時の通学先
21	スポーツクラブ
22	民泊
23	ドライブ

(1)④ あなたが感じる、多摩・島しょ地域の魅力を教えてください。(複数回答、n=900)【その他】

NO	意見
1	町田は都会だと思う
2	自然
3	都会過ぎず田舎過ぎず、郊外として暮らしやすい
4	温泉
5	土地はあるため大きいレジャー施設がある

49

(1)⑤ あなたが感じる、多摩・島しょ地域の課題を教えてください。(複数回答、n=900)【その他】

NO	意見
1	保育園が足りない
2	多摩地域、伊豆小笠原諸島の過疎化・空洞化と都心への一極集中
3	家賃や物価の高さ、高齢化、人口減少

(2)①-1 まちづくりに参加する際、活動範囲として想定される場所のイメージを教えてください。(複数回答、n=389)【その他】

NO	意見
1	生まれ育った自治体
2	自分のお気に入りの場所
3	地元
4	愛着のある地域・自治体
5	地元

50

(2)①-2 活動範囲として想定される場所を選んだ理由を教えてください。(複数回答、n=389)【その他】

NO	意見
1	応援したい地域だから

(2)①-3 あなたが関心を持っている、地域や社会の具体的な課題を教えてください。また、関心のある課題のうち、あなた自身が課題解決に向けた活動に参加しているものがあれば教えてください。(複数回答、n=389)【その他】

NO	意見
1	公共交通機関の整備
2	人口の流出
3	空き家問題
4	外国人(日本の文化を尊重せず、税金の無駄遣いをする者に限る)への牽制

51

(2)①-4 参加している活動の状況を教えてください。なお、複数の活動に参加している場合、最も参加頻度が高い活動について教えてください。(単一回答、n=193)【その他】

NO	意見
1	特になし
2	仕事の一環
3	会社として参加しているから

(2)①-5 活動に参加することへの不安や参加の妨げになっていることがあれば教えてください。(複数回答、n=196)【その他】

NO	意見
1	勉強との両立
2	現在妊娠中の為、体力的にも厳しい

52

(2)② 関心がない理由を教えてください。(複数回答、n=511)【その他】

NO	意見
1	同世代がやっているイメージがない、偽善っぽく見える
2	なし
3	興味がないから
4	なんとなく
5	別に住んでないから

(3)① 次に挙げるまちづくり活動について、あなたが参加したいと思う活動を教えてください。(複数回答、n=900)【その他】

NO	意見
1	知的会話で先進的な事柄をストレスなく勤めていける環境
2	スポーツ活性化

(3)② まちづくりに役立つと考えられるスキルやノウハウに関して、得意である、やったことがあるものについて教えてください。(複数回答、n=900)【その他】

NO	意見
1	トリリンガル
2	イラスト

53

(3)③ 自治体が発信するまちづくりに係る情報を把握、収集する際に活用したい媒体があれば教えてください。(複数回答、n=900)【その他】

NO	意見
1	なし
2	Facebook

(3)④ 若者の意見を施策や事業等に反映させるため、行政に取り組んでほしいと思うアイデアがあれば教えてください。(複数回答、n=900)【その他】

NO	意見
1	若い人がやることを否定しないこと、否定する人から守ること
2	なし

54

# 参考資料5 有識者ヒアリング結果

<p>の若者像を前提にすることが重要である。</p> <p><b>(5) まちづくりにおける若者参画と女性参画の類似点</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地方では、未だに男女平等意識が低く残っており、女性が意思決定の場から排除される例がある。しかし、地域の福祉交流といった活動の多くは女性が担っている。外から嫁いでくる人が多いため、よき者としての理想と複数の社会的つながりを持っていることも多い。そのため、地域に長く住んでいられる男性よりも広いつながりを持っている場合がある。</li> <li>・こうした女性たちが中心となって活動を始めると、他世代を巻き込み、地域づくりが活発になることがある。これは、若者の参画が他世代との関係性を促す構造と似ており、重要な役割を与えている。</li> </ul> <p><b>(6) 世代を超えた柔軟な連携と人材循環</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・若者が地域活動を進める上で、年長者の知恵や経験を借りることは有効である。ただし、その関係が一方的であってはならず、互いにリソースを共有し合う対等な関係性が前提となる。若者を手足のように使おうとする姿勢では、真の連携は築けない。</li> <li>・このように、地域内外の多様な人材が循環し、流動的に関与する仕組みを整えることが重要である。若者は、その循環のハブとなり得る存在であり、だからこそ、多くの地域で若者を中心とした政策が展開されているのである。地域づくりにおける留意点は、この「循環」をどうつくりだしていくかである。</li> </ul> <p><b>(7) 若者の年齢の考え方</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・若者の定義について明確な線引きをする必要はない。何を目的とした場なのかによって、どの年代が選んでいるのか異なってくる。例えば、地域のワークショップのように多様な意見交換を目的とする場であれば、中学生でも十分参加可能である。もちろん、すべての中学生が同じように積極的に関われるわけではないが、意欲のある子どもがいるならば、それに対応した方法を用意すべきである。</li> <li>・多摩市の若者会議では、中学生が自然と参加し、友人を連れてくることもある。ときには小学生が関心を持って参加することもあると聞く。もちろん全員がついていけないわけではないが、興味を持って参加しようとする人がいるのであれば、年齢によって排除するべきではない。</li> <li>・これまでの社会では、「中学生は子どもだから」「高校生でもまだ早い」「大学生も社会に出ていないから」という理由で、若者を限定的に扱ってきたが、そうした年齢基準はあまり意味がない。重要なのは、その人が「関わりたい」という意志を持っているかどうかであり、年齢に関係なく柔軟に受け入れる姿勢が必要である。</li> </ul> <p><b>(8) 地域づくりの入口は「楽しみ」であり「没入感」が得られるかが重要</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域づくりにおいては、年齢による参加の制限よりも、「面白そうだから関わりたい」という主体的な意欲が何より重要である。送られてきた計画書にもあったように、「楽し</li> </ul>	<p>対談者：大杉 寛 氏（東京橋立大学法学部 教授）</p> <p><b>(1) 若者、女性のまちづくり参画の必要性</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域において、若者や女性が排除された形の民主主義が常態化していることは問題である。地方創生2.0においても指摘されているように、彼らの参画が前提とされべきである。たとえば、参画の機会や場があっても、重要な意思決定の中核を担えず、下請けのような位置づけに留まっている状況は、民主主義の理念に反する。</li> <li>・地域づくりは短期で実施するものではなく、10〜20年という長いスパンで継続されるものである。今後、若者世代が、将来的に社会の中心的存在を担っていくことを考えれば、若者世代の声を聞くことは必須と言える。また、若者だけに任せられよといったものではなく、多世代交流につながるべく組織が不可欠である（若者がそもそも欠けていることが前提）。</li> <li>・団塊世代の人々も、かつては若いころから地域づくりに参画し、地域の取組を上手に進めてきた経緯があると思うが、そのような人材が減っていく中で、若い世代が入っていきやすいう問口をつくってあげるといった理念においても若者政策が重要と考える。</li> </ul> <p><b>(2) 地域活動の推進策と若者の接点</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高度経済成長期以降、働く場所と暮らす場所が分離され、地域内で完結する人間関係は衰えた。若者は地域との接点を持たずに成長するケースが多いが、程度の差こそあれ、それは都市部に限らず農村でも見られる傾向である。若者は地域外に複数のつながりを持ち、従来の、従来の条件の中で地域づくりを担う存在となっている。</li> </ul> <p><b>(3) 地域社会との関わり方</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・私の世代の都市部に育った人々は、地域というものをあまり意識せずに育ってきたのではないが、若い頃は「ボランティア」という言葉自体が十分に普及しておらず、積極的に地域活動に関与するという発想は薄かった。ただし、今振り返れば、自然と地域の営みに参加していたことも多く、上の世代の影響を受けながら無自覚に関わっていた面もある。</li> <li>・一方で、地方に暮らす世代や上の世代の人々までは、地域と関わるということが「当たり前」として根付いてきた。自発的というより、関わりざるを得ない環境だった。しかし、そうした関係性も時代とともに弱れていった。高度経済成長期以降、住む場所と働く場所が分離され、生活と地域が切り離されていく中で、地域コミュニティの一体性は失われていった。</li> </ul> <p><b>(4) 今の若者世代の状況</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現代の若者は、生まれ育った地域であっても、生活・経済・人間関係が分断されている。学校や職場は地域外にあることが多く、地域内における接点は極めて少ない。このような前提の下で、若者に地域参画を求める場合は、従来のモデルとは異なるアプローチが必要となる。他の世代への施策を考える上でも、このような、これまでの異なる条件</li> </ul>
--	---

い」という要素が入り口として大切である。

・楽しいとはすなわち、没頭できる、没入感が得られることである。参加する単に没入できる状態を整えることも必要だが、同時に、受け入れる側にも、没入させる魅力や仕掛けを用意することが必要である。双方が惹かれ合うような関係でなければ、絶望は無い。

**(9) 没入感は偶然と必然の両面がある**

・人が何かに没入するきっかけは、計画的に生まれる場合もあれば、偶然によることもある。一定の工夫をすれば多くの人が入力できることも可能だが、それが必ず成功するとは限らない。単純作業でも、人によっては夢中になって取り組むことがあり、たとえば料理中の皮むきや掃除など、普段なら面倒に感じる作業も、一度始めるとやめられなくなるようなことは多くある。

**(10) 権限にみる「体験の入り口」**

・和歌山で行われている梅アークーションでは、雨の中で著ちた梅を拾い集めるという単純な作業に、多くの人の中になった。体験してみなければその魅力は分からず、最初から関わろうとしなければ、そもそもその「面白さ」に触れることすらできない。このように、「少しやってみよう」と思わせる入り口が用意されているかが、没入体験の鍵である。

**(11) 没入できる人（関係人口）をどう広げるかが重要**

・デジタルアートなどで用いられる「イマージ（没入型）」という言葉に象徴されるように、関心がある人だけがその場に入り込む、全員が関わる必要はなく、没入できる人が一定数いればよいという考え方が現実的である。

・地域活動においても同様であり、すべての住民が関与することを求めるのではなく、関係人口として外から関わってくる人々をうまく取り込むことが重要である。地域に住んでいても関わらない「非関係人口」は多く存在しており、無理に変えようとするのではなく、まずは関わられる人たちで取り組み、周囲に「面白そうだ」と思わせていくことが、広がりにつながると考える。そうした関わりを持つ「入り口」を増やすことが重要である。

**(12) 柔軟な関わり方が人材を育てる**

・地域活動において、個人が必ずしも継続して関わり続ける必要はない。関わりたいときは力を出し、疲れたら離れる、リーダーシップを取りたいときに前に出る、そうでない時は観客のように参加する。子育て中であれば子どもと一緒にイベントに参加するだけでもよい。このような多様な柔軟な関わり方を認める場をつくることが重要である。

・人材育成という観点でも、事前に必要能力や知見を身につけようというのではなく、「リーダーを育てる」、「リーダーがいなくても上手にいかない」といった考え方も不要である。様々な人が、アイデアや工夫で活動を支え、そのような多様な役割がある

からこそ、地域づくりが広がる。

**(13) 好層性を生む若者の役割**

・若者が参画することで、他の世代も巻き込まれ、地域に人の流れや循環が生まれる。そのような循環装置としての役割は極めて大きい。行政がすべきは、過度に管理することではなく、柔軟に支えること、特に最初は支援しても、やがては自走するよう促すことである。

・多摩市では、若者会議の自走を前提に立ち上げ、最終的には若者自身が合同会社を設立し、委託運営するまでに至った。職員が若者の一員として参加したことも成功要因である。

**(14) 視野を広げた地域づくりの重要性**

・個別の自治体で地域づくりを進めると、自分たちの範囲だけで完結させようとしがちである。しかし、地域づくりは本来、より広い視野で捉えるべきものであり、移住・定住においても「自分の町に住み続けたい」ということだけに執着せず、「この地域圏に関わってもらえる」という価値を見出す姿勢が求められる。

・たとえば地域おこし協力隊が県外に移って活動する場合でも、「出て行った」と感嘆ではなく、「この地域に関心を持って関わってくれた」と前向きに捉えた方がよい。

**(15) 多摩市の特性**

・多摩市は、その周辺にはもともと大学の立地も多い地域であり、また、市域の大半がニュータウンエリアであるなど、地域住民の多くが「よそ者」として移住してきているため、地域住民の間に「地元出身者でなければ」というような排他性は少なく、外からの人材を受け入れやすい風土がある。こうした柔軟な地域性は、若者の参画や循環を促す上で大きな強みと言える。

・多摩市の若者会議は、立ち上げ当初から「3年で打ち切り、自走を目指す」という方針を明確に掲げていた。実際には、完全な自走ではないが、一定の支援のもとで継続されている。3年後には、若者会議の関係者が合同会社を設立し、その法人が運営を委託するという形で継続が図られている。

・この会社には、市から運営費の支援に加え、施設管理、多摩市文化祭のオンライン対応といった業務が委託されており、事業としての基盤づくりへの支援がなされている。設立時期がコロナ禍と重なったこともあり、デジタル分野に対応できる若者たちが中心となって対応したことも功を奏した。

・もう一つ特徴的なのは、若者会議に若手職員が「一若者」として参加していた点である。単なる市民の立寄としてだけでなく、地域の若者の一員として活動しつつ、必要に応じて行政職員としての役割を果たすという柔軟な立場を取っていた。

・このように、職員が両方の立場を切り替えるながら参加する形は、地域との信頼関係を築きやすく、事業の自走化にも寄与している。こうした職員の関わり方は、多摩市の取り組みを成功に導く一つの要因であったと感じている。

**(16) 行政の役割**

- ・若者政策の取り組みは、職員個人の熱意によって支えられている例も多いが、持続性には組織全体の風土や経営陣が必要となる。トップや管理職が若者の主体性を信頼し、通途に口を挟まずに自由に開かれる環境をつくることが重要である。行政が主導するのではなく、あくまで民が主体となり、行政は後方支援するというスタンスが望ましい。
- ・若い職員が興味を持った取り組みに、職務の範囲を超えて関わられるような柔軟性が必要である。情報を選断するのではなく、必要な知見は開示しながら、地域の若者と共に活動できるような環境を整えることが、人材育成にもつながる。役所内でもトップや管理職層が現場に出て、住民とともに活動を体験する機会を設けるべきである（オプザサーバ的に載めているだけではない）。

**(17) 高しよ地域における参画促進の可能性**

- ・島しよ地域では、東京等の都心における出身者のネットワークを活用し、都市間で若者会を創出するなどの「関係人口」としての関与が有効である。同窓的なゆるいつながりから始め、縦・横・斜めの関係性を構築できるような場を意識的につくっていくことができることと良い。行政は、婚活の提供や交通費補助などの形で支援することも考えられる。
- ・いわき市は、東京に出た若者たちが出身者同士で集まる場として若者会を創出したこととがある。そこに同市外出身の友人を誘ったりして輪が広がっている。それによって、出身者がリターンするだけでなく、友人も連れていく。そして、いわき市に縁のなかった若者が「面白そうだから」と移住してくるケースも出てきている。就職先の有無なども影響するが、興味・関心が動機となって移住や関係人口につながることは十分あり得る。
- ・一方で、島のような地域では就業機会が少ないため、単純な移住誘導とは異なるアプローチが求められる。たとえば、神津島のようにアーティストが集まり始めることで、新たな動きが生まれている。若者が集まれば、自然とカフェや雑貨店を始めるといった動きが出てくる可能性があり、そこから地域の場力や活動の幅が広がっていく。
- ・このように、「なぜここに来るのか」を丁寧に考えることにより、地域ごとに異なる可能性が見えてくる。関心のある人が自然と集まり、様々な活動が始まるような場の形成が、持続的な地域の活性化につながる。

**(18) 集積のあり方**

- ・後述の広報はしばしば若者に届きづらく、SNS や口コミを重視した柔軟な発信が必要である。若者自身に広報づくりを担ってもらい、または市民・住民主体の媒体を構築するなど、発信方法にも参加型の要素を導入することも考えられる。

**(19) 若者の参画促進につながっている例（香川県香川郡平野町）**

- ・香川郡平野町では、若者の活動によってまち全体が大きく変わりを始めている。1 年前に

5

訪れた際と比べても、明らかに雰囲気が変わり、活気が出てきた印象を受けた。

- ・新たな取組の一つが「ことひらまらじゅい図書館」であり、町内の店舗や施設に本を配置して自由に貸し出している。配置場所によっては遠郊が困難な場所（階段を上っていった先の店舗等）もあため、本の運搬役を地域の高校生が担っている。単なる作業のようにも見えないが、こうした関わりの中から、「自分たちでも何かやってみよう」という主体的な意欲が引き出されることが期待される。

※ことひらまらじゅい図書館：https://kotohira-machitoshio.com/

- ・香川町では、グストハウスやワークスペースといった新しい施設も次々と誕生しており、それらは地元出身の若者や、外部から移住してきた大学卒業直後の若者たちが中心となって運営している。20 代のうちに事業を立ち上げる若者も増えており、地域が若者の挑戦を受け入れる場になりつつある。

- ・このように、地域の新陳代謝を担う存在として、若者の参画が多様な形で広がりを見せており、それがまち全体の変化を促している。

**(20) 大学生の特性と参画の仕掛け**

- ・学生は基本的に単位や予定が優先であり、たとえ関心があっても地域活動への参加は難しいことが多い。英断、ゼミで参画する若者会への参加を勧めた際も、全員が予備校などの予定で参加できなかった。関心がなくはないが、関わる時間を確保できない状況にある。
- ・ゼミでは、自身の地元自治体を対象に若者政策等を調べ、役所へのヒアリングも含めてレポートを書くことを義務付けている。その程度の間身なら問題なくできる学生も、総合的な活動となると「ずっと関わらなければならぬ」と思ってしまう傾向がある。これは学生に限らず、行政職員でも同様である。
- ・そのため、「一度だけの関与でもいい」という柔軟な参加のあり方を示すことが重要である。関わり方は人によって異なり、例えば災害ボランティアに直接行けなくても、寄付など他の形で関わることも尊重すべきである。
- ・無理な関与はかえって人を遠ざけることになりかねず、体調を崩すようなことがあることは本音である。それぞれが可能な範囲で、無理なく関われる場をつくるのが大切だと学生にも伝えている。

**(21) 若者が参画するまちづくりへの中高年の関わり方**

- ・50 代以降の世代が若者支援に関わることは有効であるが、「上から目線」ではなく、フラットな関係を築くことが不可欠である。世田谷区の NPO 法人 neomura では、用賀駅前（大塚駅）で毎年開催するサマーフェスティバルでは大人が地域活動へインテグレーションとして関わる「大人インターン」という仕組みがある。このように、参加形態を柔軟に設計し、中高年はあまり前に出ず、ここぞでサポートする姿が見守る姿勢が重要。

※NPO 法人 neomura：https://www.neomura.or.jp/

**(22) 大学生が少い地域における若者参画**

6

・大学生が少ない自治体でも、高校生、専門学校生、地域に関心のある若者など多様な層を起点にできる。医療・看護系や福祉分野など、専門性のある若者と地域課題を統括する試みも有効である（藤沢市林井子町では、看護専門学校があり、地域の保健に関わる取組に参画している例もある）。

**(23) 勤務時間の一部を地域活動へ**

・職員が勤務時間の一部を地域活動に充てるような制度（地域担当職員制度）が広がれば、自治体職員が地域づくりに主体的に関わっていくことが期待される。

以上

林 大輔 氏 (真岡市複合交流拠点施設 monaca 地域交流センター/元・真岡市議員)

(1) 高校生等の若者がまちづくりに参画する背景と課題意識

- ・平成 27 年調査では「住み続けたい」と答えた高校生は 33.3%であったが、令和元年調査では 17.8%にまで減少。
- ・市の総合計画では、市長が、「住み続けたいまちにすること」を最大の目標として掲げているが、現実には高校生の意識と乖離している。
- ・市内には大学がなく、高校卒業後は東京圏へ進学・就職するのが一般的となっており、地元を知らないまま外へ出れば、真岡市へ帰ってくる選択肢(動機)が生まれず、結果として地元企業よりも大手企業へ就職するケースが多い。
- ・公務員として地元に戻った際に、同級生がほとんど残っていない現実を憂感、高校時代に地域を知る機会があれば、帰郷の動機が生まれるのではないかと考えた。
- ・高校生の段階で地域を知り、関わることで、将来的に地元へ帰る選択肢を広げる機会になるのではないかと。

(2) 「まちつく」プロジェクトにおける大人の関わり方、役割

- ・大人が、高校生や大学生(若者)へ関わる基本的なルールとして、若者の意見を否定せず、最後まで話を聞くことを徹底した。また、失敗しても良いからとにかくやってみることを大切にして、可能な限り成功体験につなげるように、大人が伴走する姿勢を共有した。
- ・「まちつく」へ関わる大人については、自らの経験を押し付けたり人々や、自體型の大人は排除し、若者を支え、後押しできる人材を厳選して集めた。
- ・若者は、19 歩先の未来は想像できないし、1 歩先でも嬉しいが、半歩先なら、実感を持って取り組むことができる。そのため、大人は、若者の想像の少し上(半歩先)の未来を描くように関わった。
- ・若者に対する関わり方については、宇都宮大学地域デザイン科学部の石井水一朗教授の助言を受けながら進めた(半歩先の未来を描くという考え方は、石井教授の教え)。
- ・大人が、若者の想像を超える関わり方をすることで、若者にとっての驚き、大人にとっての「ごい」という意識の変化にもつながる。
- ・高校生は、親や先生以外の大人との関わりを経験し、信頼できる大人の存在に気づく。そして、卒業後も、若者先の菊池や埼玉等から戻り、後輩の支援のために活動に参加する学生も出てきた。地元を離れてもプロジェクトに関わりたいという思いが芽生え、継続性、若者の信頼が生まれている。

(3) 若者がまちづくりに参画する意義

- 地域、大人にとっての意義
  - ・若者が主体的にまちづくりに関わることで、地域の大人は勇気づけられる。若者が頑張っているのに、自分たちは何も良しなくないのかという意識になり、目の色が変わる。
  - ・当初は、若者がまちづくりに関わることに対して、「どうせ高校生には無理」という話

1

- もあつたが、先入観が覆され、「高校生でもこれだけできる」との認識が広がった。
- ・例えば、商店街のシャッター街問題を、高校生に何となくかしてもらおうという相談を受けただけであるが、それは、本来、数十年前から商店街に開く大人が責任を持って取り組むべきことであり、若者にやらせようということではない。若者の取組は、大人が果たしてこなかった責任を自覚させ、大人の行動を促すことにもつながる。

○行政だよっての意識

- ・若者の提案は「隣の御旗」となり、庁内調整や市民への説明において、説得力を与える。行政職員が単独で企画するよりも、学生提案として進める方が、実現性が高い。
- ・若者の声を生かすことで、行政は、若者と共にまちづくりを進める自治体というポジティブなイメージの獲得にもつながる。

(4) 若者と取組を進める上での工夫(場づくり・進行方法)

- 安心できる場のデザイン
  - ・会議室での形式的な進行(テーブルで島をつくり、機軸紙に付箋を貼りだしていくようなやり方)を避け、レジャーシートに座って話し合う。デザインが異なる椅子を並べる等、自由でフラットな雰囲気を出し、自分の考えや意見を言いやすい場づくりを意識した(機軸紙に付箋を貼っていくような進め方に若者は慣れずぎていて、関心を持たないことも多い)。
  - ・夏場に行ったまま暑さでは、ふり返りとして、簡易プールを設置を入れて、お菓子を準備しながら気楽に意見交換するなど、リラックスした雰囲気重視した。
  - ・いい意味で、「ちゃんとしなくても良い場所」、「自分を出しても良い場所」と思ってもらえるような場づくりができる。
  - ・会議等の場では、若者はちゃんとしなさいといけなさいという考えになりがちだが、そうすると、おまかせではないことが意見として出てきてしまう(本人は別に興味はないが、地域の問題解決をした方が良いといいた意見を出す等)。
- アイデアの引き出し方
  - ・自分の位置感を描くことから始めるなど、自然に会話を引き出すことに留意した。
  - ・例えば、「カフェが欲しい」といった抽象的な意見については、「どうしてそう思う?」「だれと過ごしたい?」「いつ行きたい?」といった深掘りをしていくことで、「放課後にお金をかけずに友達と過ごせる場所が欲しい」という本質的なニーズへ具体化させていった。
  - ・アイデア出しの話し合いの前半は、若者同士で質問し合い(大人が差しすぎると押しつけや圧を感じてしまうため)、お互いの本質的なニーズを探掘りしてもらい、ある程度、方向性が固まってきた後半に大人が加わり、実現可能性や規模感等の観点から、質問、助言を行い、企画内容を詰めていく流れで進めている。

○成功・失敗の考え

- ・若者の企画を実施した結果、上手くいくこともあれば、上手くいかないこともある。ただ、それは成功・失敗ということではなく、仮説検証のプロセスとして捉えている。継続的に取組を進めていき、上手くいかなければ、次は上手く行くように見直し、再度や

2

<p>ってみる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・例えば、雨天で野外イベントをやれば、来場者が少なくなるのは当然だが、それは「失敗」ではなく、実績の結果として次につなげる。行政調整の際にも、総合計画に基づき実績の一端として取り組む実績として説明し、理解を得られるようにした。</li> </ul> <p><b>(6) 大人の参画とモチベーション</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「まちつく」に参画している大人は、ウェディングプランナー、カメラマン、一級建築士、建設会社の経営者など、地域の多様な人材が関わっている。</li> <li>・主に40代が中心で、40歳で青年会議所を卒業した後も、何か地域活動を続けたいという人々を中心となって取り組んでいる。</li> <li>・最初は、「自分でやった方が早い」と感じていた大人も、高校生のアイデアや取り組んだ成果に触れ、若者が関わることの価値を真感。一人で取り組むよりも、高校生が取り組んで成果を出した方が、「自分がやるよりも楽しい」と感じ、継続的に参画するようになった。</li> <li>・波及効果として、「まちつく」に参画した高校生が、地元企業や市役所に就職する事例も生まれている。</li> <li>・SNSや広報紙に、「まちつく」の活動が掲載されることで、若者の採用活動や地域の理解促進に寄与している。特に地方では、行政が発行する広報紙の影響力が強く、地域住民（特に高齢者）の活動の認知度が高まっている。</li> </ul> <p><b>(6) 若者と地域とのつながりの醸成</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「串子屋トアツアツ」という、若者が小学生に勉強を教える取組で、若者が地域の親子と知り合いになっていく。真面目外から参画していた若者も、「まちつく」を通じて、真面目で知り合いが増えたことを実感しており、真面目市に対する愛着が生まれている。</li> <li>・「Inonca」ができたことで、「まちつく」の活動に広がりが出ていく。若者が「Inonca」にくると、友人と話したり、知り合った大人たちと会話を交わしたりしており、「Inonca」が、若者にとって、活動する場所、居心地の良い場所として機能し始めている。</li> <li>・地域で世間話ができるような関係性が増えていくことで、行政に対する不満やクレームの減少にもつながるのではないか（クレームは、個人的な不安、思い込み等に起因することも少なくなく、地域に知り合いが増え、話せる相手ができることで、クレームにまで至らないこともでてくると思われる）。</li> </ul> <p><b>(7) 行政に求められる役割</b></p> <p>○行政の責務</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市民ワークショップ等で、若者から意見を聞いた、それら意見をどう反映したのかわからないようなこともよくあるが、意見を聞いた以上は、どの意見をどう実現させるか考えるのは大人の責任であり、行政として責務が必要。</li> <li>・そのような覚悟を持って取り組まなければ、若者に対して失望を与えかねない。</li> <li>・行政は、広報紙等のメディアを活用して、市民や企業等に対して、取組を発信できるこ</li> </ul>	<p>とが可能で、個人や民間には難しい「信用」と「実力」を持っている。また、河川敷や文化施設の活用等では、行政が活用できるような支援することで、若者の主体的な活動を後押しできる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・行政にとっても、若者と一緒に行政がまちづくりを推進しているという姿勢は、市民への説明や理解促進にも有効であり、市のブランディングにもつながる。</li> </ul> <p>○上手く行かなかった事例</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度、「まちつく」の若者の参加者が急減している（今年度の申し込みが約40名に対し、ワークショップ参加者が2〜3名となっている）。</li> <li>・ワークショップでは、「アイデアを1人5以上出す」、「活動場所を3つに絞り、均等に人数を分ける」等、行政が進め方を細部まで決め、若者の意思に関係なく、チームや活動内容を割り振った。</li> <li>・このような進め方は、学校の授業やクラス替え等と変わらず、若者の意志の尊重、自由度の高さが奪われ、参加意欲が失われたと考えられる。</li> <li>・本来は、行政として、選択肢を提示することが重要で、選ぶのは若者側であるべき。活動を3つに絞ること自体は問題ではないが、どこに参画したいかを若者に委ねる必要があった。</li> <li>・均等に人員を割り振ることが目的化し、取組によって成果を出すという本来の目標が見失われてしまったと考えられる。</li> </ul> <p>○若者、民間を信じる、委ねる</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「まちつく」の進め方に關して、行政として、「しっかり自分たちで進めなければいけない」、「失敗は許されない」という思いが強すぎたことが大きな原因の一つではないか。</li> <li>・本来は、若者の自由な発想力や行動力、民間の知見や技術等を生かし、行政の不得意な部分は、若者や民間を信じて、委ねる（力をかりる）ことが必要だと考える。</li> </ul> <p><b>(8) 行政内部の合意形成の難しさ、工夫</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・例えば、河川敷や文化財を活用した取組を進めるにあたり、庁内では、「やっても自分の成果に直結しない」、「管理が大変になる」等の理由で消極的な反応が多かった。</li> <li>・「まちつく」でまとまった若者の提案は、総合計画の目的を達するための取組であり、その一環としての社会貢献と位置づけた。そのため、個別のイベント（社会貢献）で成果を評価するのはあまり意味がなく、継続的に仮説検証を行っていくことが重要という考え方を示した。これにより、反対されにくい雰囲気をつくり、庁内の承認を得やすくなった。</li> </ul> <p><b>(9) 市民主体でまちづくりを進める必要性</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・総合計画のように、「みんなが生きたいまち」では、誰の思いも込められず、共感も得にくく、自分ごとになりにくいのが、「私が生きたいまち」として、主権を自分自身で、主体的に関わりや共感につながる。</li> <li>・行政に対して、「スタッフが欲しい」、「エスカレーターが必要」といった要望は多いが、</li> </ul>
--	---

そこから「本当に必要なものは何か」を個人視点で掘り下げることで、本当に必要なニーズに近づくことができる。

- ・行政まかせではなく、市民が自らまちづくりに参画していく、まちづくりの主体性と認識してもらうことが大切だと考えている。

**(10) 若者募集とPRの工夫**

- ・「まちつく」の1年目は、参加者募集に大変苦労した。SNS、高校へのチラシの配布、市の広報紙等、あらゆる手段を使い、何とか20名の参加者を得て、「まちつく」への参画が実りあるものとして思ってもらえるように、丁寧に描めた(1年目は高校の了承を得て参加してもらった)。
- ・1年目の取組では、河川敷が多くの来場者でにぎわった「ビクニックマルシェ」の経験等、成果や達成感を共有した参加者が、口コミで広げてくれたこともあり、2年目以降は応募が増加した(2年目以降は高校生個人としての参加)。特に真岡女子校からの参加が大幅に増え、継続的な参加につながっている。
- ・SNS運用に関しては、活動の準備段階からプロセスを発信し、期待感を醸成と、ファンをつくり上げていくことが重要。

**(11) 若者と関わる難しさ**

- ・若者が本音を言わないことが多い。大人教の場では意見を出しにくいいため、LINEのオンラインチャットを使うなど工夫したが、完全には解決できていない。
- ・ワークショップ等で、若者の反応が薄い場合は、スケジュールを柔軟に変更し、まち歩きへ変更する等の軌道修正を行った。
- ・集回、試行錯誤して取り組んでいるが、上手くいかないと感じることの方が多い。
- ・若者にとって、活動の「継続」よりも、そこに至るまでの「プロセス」が共有されることが重要。この「プロセス」を通じて、若者の達成感や主体性、大人との信頼関係の醸成につながると考えている。

**(12) 行政の制約と継続性の担保**

- ・行政は、担当者の異動があり、どうしてもノウハウの蓄積や継続性が阻害される。
- ・前任者から引き継ぎ場合、これまでの取組内容や実績等しが情報がないため、同様のことをやるといった発想に陥りがちだが、それだけでは難しい。新たな担当者が課題を抱え込み、結果的に運営が停滞することもある。
- ・行政の不得意な部分は、民間やNPOに委ねる仕組みが不可欠であり、行政は活動場所や資材等の提供、活動の広報等、取組自体を支える裏方に特化することが、継続性を担保する一つの形だと考える(もちろん、民間への丸投げはNO)。

**(13) 地域住民の関わり方**

- ・地域からの支援はありがたい一方、「押し付け」にならない距離感も重要。例えば若者であっても、若者の企画意図と合わない場合は逆効果になってしまう(マルシェで赤飯を

ふるまう等)。

- ・「熱烈な賛成」も「強い反対」もなく、程よい距離感で見守ってくれることが、結果的に活動を進めやすかった。学生に過度な期待をせず、ほどよく見守ることが重要ではないか。

**(14) 若者との関係性づくり**

- ・年齢・性別・立場の異なる様々の大人が関わることが重要かもしれない。若者が、「この人なら相談できる」と思えるチャネルを複数用意することで、様々な若者の思いや考えを伝える可能性がある。そういう意味では、「まちつく」には様々な大人が関わって、上手く機能していたと思う。
- ・地域おこし協力隊出身の20代女性スタッフは、高校生と親しい関係を築いており、プロジェクトの中心的役割を果たしている(高校生と一緒にスイーツを売りに行くことも)。
- ・このような活動では、若者と大人は、「上下」ではなく「対等」な関係を築くことが重要かもしれない。鯖江市の仄藤では、まずは、高校生から「ため口」で話しかけられるのが第一関門との話も聞いた。(調査員)

**(15) 行政から民間への移行と今後の展望**

- ・「まちつく」は、行政運営による運営が限界となり、直営から民間委託への移行が決定した。
- ・今後は民間に委ね、行政は資金や場所の提供等に特化し、支援を継続。
- ・活動の受け皿として、「まちつく」のNPOの他に、一般社団法人を2023年10月に設立(一般社団法人つむぐ)。
- ・一般社団法人つむぐは、市民を中心とした運営委員会のようなものを設立し、現在は民間が委託している「monaca」の指定管理の一部を段階的に移管していく構想を持っている。そして、民間の指定管理が終了する2040年に向け、市民自身が運営を担う仕組みを整備していく。
- ・消費者ではなく生産者としての市民参画を実現し、まち自体を住民が運営していく形を目指す。
- ・「まちつく」の取組は、これらへつなげるための布石(土台づくり)としても機能している。

以上

松下 啓一 氏（地方自治研究者・政策提案家）

（1）若者世代のまちづくりへの参画に関する取組について

● 若者世代がまちづくりへ参画する必要性

- ・日本の地方自治法は昭和22年にできたものであり、行政主導型（市民の本業型）の構造となっている。そのため、住民は意見や要望を述べる一方で、その実行は行政に委ねるという状況に慣れ込んでいる。この構造は、あくまで人口増加が続いていた昭和の時代だからこそ成り立っていたものであり、人口減少に転じ、少子高齢化が進む現在の我が国において生き残りを懸かっている。
- ・上記の法制度が生まれ始めた昭和の時代は、例えば不動産に価値があったため空き家問題という概念はなく、また、認知症の高齢者の暮らしは家族で支える時代であり、孤児院もなかった。しかし、人口激減に転じ、人口構成が大きく変化している令和の時代においては、行政主導型や家族で支える構造が崩壊しつつあり、従来の「要求型」では地域の課題を解決できない状況となっている。
- ・このような中、「要求型」ではなく「まちづくりを自ら考え行動する」社会が求められており、その中で若者がどうあるべきかを考えることが大切である。
- ・若者は「要求型」のスタンスを壊している傾向がある。自ら考えてまちづくりへ関わっていくために、まさに関心を持って、人に興味を持って、人に興味を持っていく必要がある。

● 若者世代がまちづくりへ参画することの意義、留意点

- ・若者がまちづくりに参画する意義は、単に地域を輝やかにする存在として利用されることではない。大人が若者を「上手く使おう」とする姿勢は、若者に見放され、逆に離れていってしまうことに繋がりがわかない。真の意義は、若者自身が地域や社会の持続性を支える担い手として成長し、人格的な自立（多様な立場や意見を持つ人たちと切磋琢磨しながら自分を磨いていく、大人になるためのプロセス）の機会をもつことにある。
- ・若者のまちづくりへの参画は、地域の課題解決に貢献する活動であると同時に、若者自身が社会の一員として自分の立ち位置を自覚し、社会的な視点をもつにつれていくプロセスである。これは、個人の尊厳を基礎とした主権者教育でもあり、民主主義社会において非常に重要な意義であるといえる。
- ・また、若者参画を進める際には、行政や地域の側が若者を単なる労働力としてではなく、「共に地域をつくるパートナー」として位置づけることが留意点として挙げられる。若者参画は、支援の延長線上ではなく、協働のプロセスとして設計されるべきである。若者に「何かをやらせる」とか「成果を出させる」といったことが目的化するのではなく、若者の主体性を損なう恐れがある。行政には、若者の声や行動を受け止め、たとえ失敗があっても、それを学びの過程として変えていく姿勢が求められる。
- ・若者参画の取組において短期的な成果を求めると、若者の試行錯誤や関係性の構築といった大切な過程が失われてしまう。むしろ、時間をかけて学び合い、地域や大人と関わりながら、社会とつながる感覚を育てることにこそ価値を見出すべきである。
- ・若者がまちづくりに参画することは、新たな発想や価値が地域にもたらされるということ

とである。そのため若者を、社会を構成する重要な主体であり、価値ある資源として捉えることが求められる。

● 新城市若者会議での経験から得たこと

- ・若者会議の活動には、若者が大人へと成長していくプロセス（人格形成、社会的自立等）としての機能が働いている。また、継続することで地域への愛着も高まる。若者会議の経験前後で政治への関心も高まっており、主権者教育の効果もあると考える。若者に係る意義は、単に目で見え、良い大人になるための施策としてとらえることが大切。
- ・総合計画における位置づけ（どのような目的や効果が期待されているのか）や、費用対効果（予算に見込めるのか）等、行政の事業の仕組みを学ぶ機会にもなっている。実際に取組の中で、自分たちが考えた施策を具現するためには予算要求が必要という意見も若者から出てきた。
- ・定住効果は期待できない。

● 若者世代に期待される役割

- ・若者に期待されるのは、固定化した地域社会の価値観に新しい風を吹き込む役割である。特に、世代間で物の見方や生活様式が大きく異なる現代において、若者は地域の未来像を再構築する存在となり得る。彼らは柔軟な発想を持ち、デジタル技術や SNS の活用にも長けている。
- ・例えば、商店街の活性化や空き家の活用を考える際に、若者は「この場所をどう使うか」というヘッド面よりも、「誰と一緒にやるか」、「そこにどのような人の関わりが生まれるか」といった点に関心を持つ傾向がある。つまり、若問そのものよりも、人と人との関係のデザインに目を向けている。この点は、大人や行政の考え方は異なっている。従来の行革的なまちづくりが、施設やイベントといった、目に見える「形」を整える方向に偏りがちなのに対し、若者は人と人のつながりの中でまちを住まえている。こうした若者の発想が加わることで、これまでになかった新しい価値や意味づけが地域に生まれてくるのだと思う。
- ・また、ある地域でまちづくりに関するワークショップを実施した際、相模女子大の学生を連れていった。すると、普段はクレーン車や言いがちな地域の大人が、若者がいる前と違って何か、提案を出し始めたという場面があった。そもそも、若者の力だと感じると同時に「大人感」があると見える。若者のまちづくり参画を通じて、若者を過小評価していたり、軽った理解をしていたりする大人の意識や行動が変わっていくことも期待されている。

ただ一方で、若者に過度な責任を背負わせてしまおうのはよくない。彼らはまちづくりのリーダーというよりも、地域の多様な構成員のひとつとして関わることが自然である。若者の意見やアイデアは、ときに長期に見えるかもしれないが、その中には地域の未来を切り拓く可能性がある。だからこそ、大人世代がそれを受け止め、具現化を支える仕組みや姿勢を改善しておくことが重要である。若者が自分の考えを試しながら、地域の課題を「自分ごと」として感じられるようになることが、参画の第一歩だと考える。希望な参

えを出す必要はなく、「考えてみる」「やってみる」というプロセスそのものが価値がある。そうした経験を重ねることで、結果的に地域に新しいエネルギーがもたらされる。

- ・若者の活躍の場を充実させていくためにも、企業等への働きかけは重要である。企業等には、若者に対して魅力的な課題やテーマを提供できるうえ、若者が参画することは企業にとってもメリットとなる（地元企業の PR 活動を若者が企画・運営する等）、また、企業への就職につながることもあり、相互に win-win の関係となる。

● 若者世代が地域と関係性をつくっていく上での課題

- ・現代の若者は、学校や職場といった枠組みの中では活動しているものの、地域社会という文脈では関係性が希薄である。そのため、地域活動は生活の延長線上に位置づけにくい。このような社会構造の中では、若者が地域と関わりをもちたいとしても、どこから関われたいかわからず、最初の一手を踏み出せない。
- ・また、教育や就労の制度が緩弱りで、地域活動と接続する仕組みがないことも課題である。学校教育の中では地域との感動学習がまだ十分ではなく、社会に出る前に地域に関わる経験を持たないまま大人になるケースが多い。そのため、地域との間に心理的な距離が生まれてしまう。
- ・一度活動へ参加してくれた若者は絶対に通さないことが大切。継続して参加してもらえないような仕掛けが求められる。「新城市若者委員会」の「新城市若者委員会連盟（若者委員の OB・OG が所属）」は、若者のステータップアップや実践の場をつくるといった観点から良い仕組みである。
- ・若者は困っていないとみなされがちであり、政策課題として設定が難しい面がある。しかし、昭和の時代とは異なり、資金は上がりやすく、得策的には社会の支え手としての集団も大きくなる中で、若い世代は将来に希望を掲げることが難しく、つらい状況にある。一般的に、ポトムアップで若者政策をつくっていくことは困難であり、トップダウンでなければ進みにくいのが現状。

● 若者世代のまちづくりへの参画を上手く進めるポイント

- ・若者参画を上手く進めるためには、若者が関わりたくなくなる虞慮が必要である。それは、安心して参画できる、居心地が良いことであり、そのためには「自分が認められる」、「色々な人と関き合える」といったことが必要となる。
- ・若者と関わり、若者のまちづくり参画を進める上で、異文化交流と捉えると分かりやすい。今の大人とは考え方や感性、価値観等が全く異なっており、それを前提として受け入れて取り組んでいくことが求められる。
- ・若者にとっての「Win」をしっかり用意することが必要である。若者にとっての「Win」とは、自分の成長やバージョンアップ（人前で話せるようになった、色々な人たちの考えを知ることができた等）である（大学進学や就職等でのインセンティブもあるが、それはあくまで結果である）。
- ・若者には、そこに居てくれるだけで場を楽しくする方がある。成功や成果を求めすぎないことが大切である。

・若者の働きやアイデアを実際に形にしていくことが重要である。ただ提案を受け止めるだけでなく、小さなことでも実現し、地域の中で可視化することで、若者自身が「自分の意思が地域を変えた」という実績を得ることができ、こうした経験の積み重ねが、継続的な参画意欲につながる。

● 取組を継続するにあたっての課題

- ・若者参画の取組を継続する上では、人が入れ替わることを前提とした仕組みをつくることが欠かせない。若者は卒業や就職、転居などによって取組への関わり方が変化するため、固定メンバー制では長続きしない。個人の熱意や偶然のつながりに依存せず、次の世代へ自然に引き継がれるような制度設計が必要である。
- ・行政内部においても、担当職員が異動してもノウハウが失われぬよう、取組の目的・記録・成果をきちんと文書化することが求められる。特に、若者の活動に関する成果は定量化しにくいものが多いため、事例やストーリーとして共有する仕組みを整えることが有効である。

(2) 多摩・高しよ地域における若者世代のまちづくりへの参画の考え方について

● 多摩・高しよ地域の特性

- ・多摩、高しよ地域は、都市近郊と離島を併せ持つため、地理的・社会的条件が非常に多様である。多摩地域は都市近郊として人口規模が大きいが、高しよ地域では過疎化が進み、地味の担い手不足が顕著である。
- ・多摩地域において、大学が多文化エリアは18歳の若者の転入超過が起っている一方、23歳で転出超過となっている。
- ・地域においては、顔の見える関係が保たれている一方で、新しい人や外部の考え方が入りにくい側面もある。特に高しよ地域では、交通や通信環境の制約があることから、若者が外部との差点を持ちにくい。しかし一方で、地域には自然や文化、伝統が濃密に残されており、これらを活かした活動の余地は大きい。

● 高しよ地域における若者のまちづくり参画のあり方

- ・高しよ地域における若者参画には、地域内にとどまらず、地域外とつながることの両方が重要である。地域外とのネットワークを持つことで、狭い範囲に閉じこもることなく、外からの刺激を地域に還元することができる。オンライン会議や交流プログラムなどを活用し、他地域の若者とのつながりを広げることが有効である。
- ・また、リターンや I ターンで地域に戻ってきた若者が、外で得た知識や経験を地域に還元するケースも増えている。地域がこうした若者を受け入れ、その活動を支える体制を整えることで、高しよ地域の持続可能性は高まっていく。若者が地域の未来の担い手となるためには、自由に活動できる環境と、それを温かく見守る地域の厚みの両方が求められる。
- ・千葉県御宿町では、50 歳までを若者として、まちづくりを進める取組を行っている。対象とする若者は、地域の人口構成や状況に応じて異なっていくことは当然である。



対象者：木村 紀彦（鹿屋産業大学 SFC 研究所 上席研究員）

● 木村氏のまちづくりへの参画に関する取組について

- ・木村氏は、鹿屋産業大学 SFC 研究所「ゆるいコミュニケーション・ラボ」において、実践的な取組を通じて、自ら学び成長していくというプロセスに着目して研究活動を進めている。
- ・面白いと思うことを実際にやってみる、チャレンジしてみることを応援できるコミュニケーションをつくることを、実践的なプロジェクトを通して取り組んでいる。（課題解決のためには、地域の活性化のためといったことは前提としていない）
- ・木村氏も研究の一環として関与した「鯖江市役所 京藤」では、特定の成果を生み出すことを目的とはせず、女子高校生に主導権を委ね、自由に過ごす中で生まれる疑問や関心を起点として、まちとの関わりが形成されていく過程を重視した場として運営されている。
- ・例えば消防署と連携した「日番長体験を行った際には、あらかじめ用意された体験内容よりも、「もしご車のほしごはどこまで伸びるのか」という疑問に関心が集まった。その結果、参加者自らの関心を起点として、実際にほしご車に乗る体験へと活動が開演していった。
- ・また、自衛隊基地と連携した際には、「自衛隊って制服の印象から怖いイメージがあるよね」という素朴な印象をきっかけに、業務外の私服姿を見ることができるとして「かっこいい」という関心から、自衛隊員の私服ファッションショーを行うということもあつた（結局、私服も迷彩柄というオチもあつた）。
- ・このような活動を通して、高校生は、「大人も同じ人間なんだ」、「話してみたら結構面白い」、「こんな人がまちにいるんだ」といった気づきにつながり、広い意味での学びとなつている。
- ・京藤という実践的なプロジェクトを通して、本人が「まちづくりとは何か」を教えられる、目指すべき成果をあらかじめ用意したりしなくても、若者世代を信じて任せることで、自分たちから生まれる疑問や関心を起点に実践を重ねていくことが可能であり、その実践の過程が、本人たちがまちについて考えていく学びのプロセスになることを示すことができた。
- ・また、京藤の活動を通じて、「まちづくり」や「課題解決」を前面に掲げなくとも、若者世代がまちの人と出会い、資源を活用する中で、面白い出来事が偶発的に生まれ、結果的にまちにつながる動きが生まれる可能性が示唆された。
- ・その気づきを持って、新潟県南魚沼市と連携して、高校生が主体となった活動する「燕市役所まちあそび部」としての取組を開始した。本プロジェクトでは、「まちづくり」や「課題解決」を前面に掲げるのではなく、まちの資源を活用して遊びを企画する「まちあそび」を通じて、若者がまちに関わる機会を創出することを実践している。
- ・まちあそび部では、これまで関わる機会がなかったまちの人と若者が、一緒に活動することを通じて関係をつくっていく点が重視されている。本プロジェクトに関わる行政職

員は、部員である高校生たちとともに考え、地域の人や団体と協力しながら活動を支援する役割を担っている。例えば、ご当地キャラクターと一緒にバスケットボールをした「チームン店」など地域の人と関わりながら活動を行ったりする中で、結果として新たな関係が生まれていく。

- ・より広い年代を対象とした取組として、福井県と鹿屋産業大学 SFC 研究所との共同研究事業として「エキセントリック・ガレッジふくい」を実施している。本事業は、高校生から 40 歳未満までの若者を対象に、地域におけるチャレンジ活動を応援することを目的とした実践的な取組であり、これまで 3 年間にわたり、県内外から約 100 人が参加してきた。
- ・その過程で、集った若者たちがお互いのズレや異質さをおもしろがり、内なる語りや違和感を深め合うことができるとして土壌が育まれてきた。そうした関係性を起点として、福井に根ざした新しいビジネスや地域活動、場づくり、芸術活動など多様な実践が生まれ、参加者同士のつながりから、「福井の新しい若者文化」とも呼べる動きが芽生えつつある。

● 取組のきっかけ

- ・地域の課題解決（マイノリティをゼロにする）に向けた事業は一定の効果がある一方で、それだけではまちの魅力や楽しさが若者世代に実感されにくいのではないかと、という問題意識を持つ自治体も多い。
- ・とくに高校生くらしの年代では、地域課題を直接問いかけても生活実感と結びつきにくく、関心や主体的な関わりが生まれにくいいため、課題解決とは異なる入り口から関わりをつくる必要があるという問題意識もある。
- ・そこで、個別の課題解決に取り組むこと以上に、若者がまちと関わる機会を増やしたり、まちの中でできることを増やしたりすることで、まちとの関係性そのものを変化させていくことを重視したいという考え方が背景にあり、そのような考え方を共有する自治体と連携してきた。

● 若者の特性

- ・まちあそび部の活動を通して、高校生は大人に対して偶然とした怖さを感じており、普段学友で居る先生に対して同様の印象を持っていることがわかった。高校生が日常的に接する大人は、親と先生に限られることが多く、それ以外の大人と接する機会に乏しいため、大人がどのような年層なのかを实感をもってイメージしにくい状況にある。そうした背景から、まちあそび部のような活動を通して、普段接することがない大人と出会い、一緒に何かに取り組む経験が大事になる。
- ・まちあそび部の活動を促して、「大人の印象は活動に関わる前後で変わったか」と尋ねた際に、「大人への印象は変わらないが、関わった人によって変わった」と答えてくれた人が印象に残っている。「大人」という概念とした存在ではなく、自分が関わり、一緒に活動した具体的な人を通して大人を捉えることの重要性を教えてくれたと感じている。

例えば、高校生の「スマホでカッコいい写真を撮ってみたい」という声をきっかけに、本市で地域の写真家とともにまちあそびに取り組んだ事例がある。活動を一緒に進める中で、その人が写真以外にもさまざまな関心や得意なことを持っていることが自然と共有され、そうしたやり取りを通じて、次の交流、さらにその先の交遊へと関係が広がっていった。この事例は、一緒に何かに取り組みたいと自分が、人と人との関係を少しずつ形づくっていくことを示すものとして印象的であった。

- ・このように、活動を通してお互いの関係性が形成されると、高校生と大人という区別もとづく関係から、一人の人間同士の関係として據するようになっていく。
- ・一般に、高校生は家と学校を往復する生活が中心になりやすく、まちは日常の風景として通り過ぎる存在にとどまりがちである。そのため、大学進学等で市外へ転出する際には、「地元のみで何かをした」という記憶が残っていないことが多い。これは結果として、地元に残りたいという気持ちのよりどころとなる記憶が形成されていない状態と言えらる。
- ・まちあそび部では、まちの人と一緒に活動する経験を通して、まちに関する具体的な記憶をつくることを重視しており、高校生と「思い出をたくさんつくろう」という話をよくしている。活動を通して出会うまちの人が増えることで、若者世代のまちに関する思い出が豊かになることを目指している。

● 若者がまちづくりに参画することの意義、留意点

- ・若者がまちづくりに関わることの意義は、自分が暮らすまちとどのようなように関わっているかを見つめ直し、自分と地域との関係性や接点を発見することにあると考えている。
- ・既に述べたように、高校生世代の生活の場は家と学校が中心になりやすいため、「まち」という感覚が希薄になりがちだ。そのため、まちあそび部のような活動で留意しているのは、「学校と家ではできないこと」に取り組みむという点である。そのような取り組みが、まちと接点を見つけていけるきっかけになると考えていた。
- ・また、自分とまちとの関係性を「課題解決」という枠組みに留めないことも、留意していた。まちとの接点は、もともと多様性を持ってよいはずだという考えが背景にあった。そのため、初めから地域のために何かをするという目的意識を若者世代に求める必要はないと考えている。「なんとなく楽しそうだからやらせてみよう」、「友達に誘われたから参加してみた」といった軽いきっかけで十分であり、そのような動機で関わることがむしろ自然ではないが、
- ・参加の動機がそのような軽いものでも、活動を通して地域の大人と出会い、自分のアイディアが受け止められたり、実際に形になっていったりすることを経験を積み重ねることで、自分の中で面白さや達成感が生まれ、「まち」という存在が自分ごととして異感であるようになる。
- ・参加と関わる際の留意点としては、行政や地域の側が、理想の若者像や、「課題解決」してくれる「まちづくりはこうあるべき」といった枠を設けないことが重要だと考えている。大人から教わったり指示されたりして、若者がそれに応えるという構図では、学校と変わらない経験になってしまふ。むしろ、自分たちで考えて動いていよと思えるブ

プロジェクト設計が重要である。自分たちが考えたことに、まちが応えてくれるという関係が、よしまちに関わろうという動機をつくっていくのではないかな。

● 若者世代がもつ力

- ・若者の役割は、まちと「実験的に関わる」ことができる点にあると考えている。ここでいう「実験的」とは、「この場所やこんなことをしたらどうなるか」「この人たちと一緒に関わったらどのような反応が生まれるか」といった好奇心をもとに、実験にやってみる姿勢を指している。
- ・そのような実験的な関わりを通して、まちの資源や人の新たな側面が引き出され、修正していきながら関係や関係が生まれていく。試しにやってみることや、うまくいかなければやり直せるといった前提が大切にされてきた点は、これまでの取組に共通している。
- ・若者がまちの中で実験的に動く姿が見えることで、それを見た大人たちが「こんな関わり方もあるのか」「このまちでこんなことをしてみたいのか」と刺激を受ける。若者が試行錯誤しながら関わられる姿が、地域全体の変化を後押しするのではないかと考えている。

● 若者が地域と関係性を築いていく上での課題

- ・大きな課題として、若者が地域に関わる機会そのものが非常に少ないということが挙げられる。特に高校生や大学生にとって、地域は日常の延長線上に位置づけられるべく、家と学校の間の往復で日々の生活が完結してしまいがち。その結果、地域との接点はますます持ちにくくなり、地域の中で「自分の居場所がある」と感じられる層も持ちにくくなる。
- ・プロジェクトを通じて見えてきたのは、若者にとつてのまちとの関係は、活動の報復や内等の大きさによって生まれるというよりも、ちょっとした関わりであっても実際に関わってみたいこと自体が重要だということである。例えば、地域の農家さんと連携して一緒にカレーをつくって食べる中で、何気ない会話を交わすといった関わりである。こうした小さな活動であっても、まちとの接点になっていく。
- ・また、そうした関係は一度きりの関わりではなく、同じ人と関わり続ける中で少しずつ形づくられていくことも見えてきた。小さな関わりが重なっていくことで関係が育まれ、その関係性が次の行動や関わりへとつながっていく。
- ・一方、地域や大人の側にも意識の転換が求められる。若者を教える対象として上から見るのではなく、一緒に活動する仲間として見ることも重要。若者が途中で投げ出したリ、失敗したりしても、それをすぐにダメだと捉えず、うまくいかなかった経験も学びとして受け止め一緒に振り返り考えていく姿勢が求められる。

● 若者のまちづくりの歩みを上手く進めるポイント

- ・若者に対して、上から教えるのではなく、横に並んで一緒に考え、話し、動いてくれるような大人の存在は重要である。これまでの活動では、プロジェクトを担当する行政職員がその役割を担ってきた。「この人は一緒に活動する仲間だ」と感じられる存在がいる



まずは各自が無理なく過ごせる状態を優先している。活動を通して関係が生まれていくプロセスを重視してきた。

● 取組を継続していくために

- ・プロジェクトを通じて感じたのは、若者と関わる際には、「誰に対しても同じように対応する」ことよりも、一人ひとりの関心や状況に向き合う姿勢が重要になるということである。行政の立場として公平性は大切であるが、若者との関係づくりにおいては、画一的な関わり方ではなく、その人に合わせた関わりが求められる場面が多かった。
- ・また、担当職員についても、前任者と同じ関わり方を引き継ぐ必要はなく、それぞれの職員の個性やあり方を活かして関わる方が、自然な関係を築きやすと感じている。その方が職員自身にとっても無理がなく、結果として関係が継続しやすくなる側面もある。
- ・若者が安心して関われる関係をつくるためには、担当職員の風性や背景が一概でないことも意味を持つ。性別や年齢、雰囲気異なる職員が関わることで、若者が自分に合った相手と関係を築きやすくなる場合がある。その意味でも、担当者を一人に限定せず、複線で関わる体制が望ましいと考えている。
- ・あわせて、こうした取組は多額の予算を前提としなくとも実施可能である。必要なのは大規模な事業費計よりも、柔軟に動ける余地であり、比較的少額の予算でも十分に継続していける手応えを感じてきた。

● 若者世代がまちづくりへ参画することの効果の測定、検証方法

- ・プロジェクトへの参加者数が多いことは一つの指標になりうるが、それ以上に、活動を通してどのようなエピソードが生じたかを重視してきた。まちあそび館に参加したある高校生のメンバーは、プロジェクトに参加して目指していることを、「人に話したくない」「話のネタ」がたたくさんでできること」だと語ってくれた。参加した本人たちが、後から語り返したくなる出来事やどれだけ蓄積されているかは、活動の広がりや影響を考えらる上で一つの手がかりになる。こうしたエピソードを語る人が増えることで、結果として活動の価値が周囲に伝わっていく側面もある。
- ・若者の活動の成果は、参加者数や数値指標だけで十分に捉えられるものではない。関係性の変化や、若者や地域の大人に生じた小さな成長・変化に目を向けることが重要である。例えば、「あの子は最初あまり話さなかったのに、自分の意見を言うようになつた」、「メンバーが地域の大人に自然と声をかけるようになった」といった変化は、活動の中で徐々に現れる成果の一つだと考えている。
- ・こうした変化を把握するために、活動を通して若者や地域の大人が語った、手触り感のある言葉を集め（この活動を通じて何を感じたか、どのような変化があったか等）、記録・蓄積していくことで、数値では捉えにくい成果を把握しようとしている。あわせて、振り返りの場を設けることで、それぞれの考えや感じ方が言語化され相互理解が深まることも、活動の意味や成果を実感する機会にもなっている。

- ・若者のまちづくり参画による効果は、短期間で明確に表れるものばかりではない。数年後に、かつて関わっていた若者が地域に戻ってきたり、地域で新たな活動を始めたりするなど、時間の経過を通して見えてくる成果も多い。短期的な評価に偏りすぎず、長期的な視点で捉えていく姿勢が重要である。

以上

